

令和3年度

全国学力・学習状況調査結果の分析

令和3年10月

四日市市教育委員会

目 次

1	全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移	p 2
2	教科別 正答数分布グラフ	p 4
3	校種・教科別 調査結果概要	p 6
4	授業改善のポイントについて	p 10
	【小学校国語】【小学校算数】【中学校国語】【中学校数学】	
5	児童生徒質問紙の結果について	
(1)	教科の意識に関する質問	p 14
(2)	「学習の基盤となる力」に関する質問	p 18
(3)	学校生活等の意識に関する質問	p 22
(4)	生活習慣と学力の関連	p 24
(5)	新教育プログラム(①②③⑤)と関連する質問	p 26
6	学校質問紙の結果について	
(1)	全国学力・学習状況調査問題の活用	p 29
(2)	全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善	p 29
(3)	学習習慣の確立と学習補充の充実	p 30
(4)	授業づくりの工夫	p 31
(5)	小中の連携(学びの一体化)	p 32
(6)	I C Tの活用	p 32
7	今後の取り組みの重点	p 33
8	参考資料	p 35

1 全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移 (H28～)

※ 平成29年度から、文部科学省の結果提供（平均正答率）は、本市と三重県は整数値、全国は小数値となっています。

※ 令和元年度より、A問題（知識）とB問題（活用）の区分が見直され、一体的に構成されています。

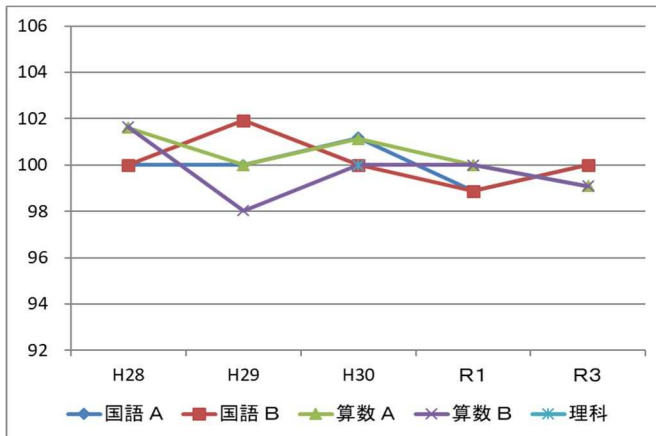
※ 数値は平均正答率。

小学校		国語		算数		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
平成28年度	本市	72.5	58.0	78.7	47.5	
	三重県	71.7	58.1	78.3	47.1	
	全国(公立)	72.9	57.8	77.6	47.2	
平成29年度	本市	75	59	78	45	
	三重県	74	57	77	45	
	全国(公立)	74.8	57.5	78.6	45.9	
平成30年度	本市	71	55	65	51	60
	三重県	70	54	63	50	59
	全国(公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
令和元年度	本市	63		66		
	三重県	64		67		
	全国(公立)	63.8		66.6		
令和3年度	本市	65		70		
	三重県	64		69		
	全国(公立)	64.7		70.2		

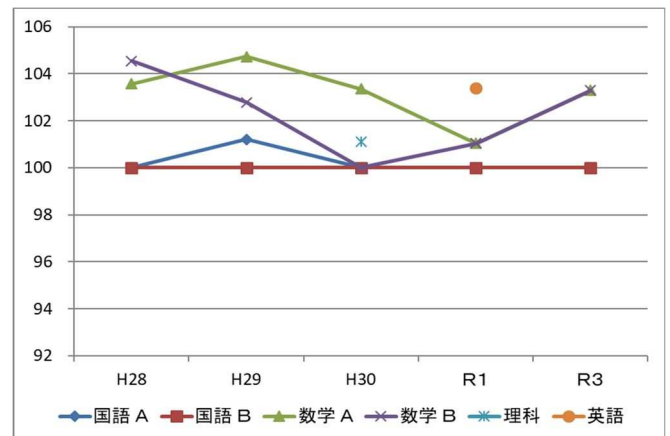
中学校		国語		数学		理科	英語
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)		
平成28年度	本市	75.8	66.7	64.4	45.9		
	三重県	74.4	64.3	62.2	43.2		
	全国(公立)	75.6	66.5	62.2	44.1		
平成29年度	本市	78	72	68	49		
	三重県	77	71	65	47		
	全国(公立)	77.4	72.2	64.6	48.1		
平成30年度	本市	76	61	68	47	67	
	三重県	75	60	67	46	66	
	全国(公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	
令和元年度	本市	73		61			58
	三重県	72		60			56
	全国(公立)	72.8		59.8			56.0
令和3年度	本市	65		59			
	三重県	63		58			
	全国(公立)	64.6		57.2			

○ 各教科別調査結果から（全国の平均正答数を100としたときの本市結果の経年変化）

小学校

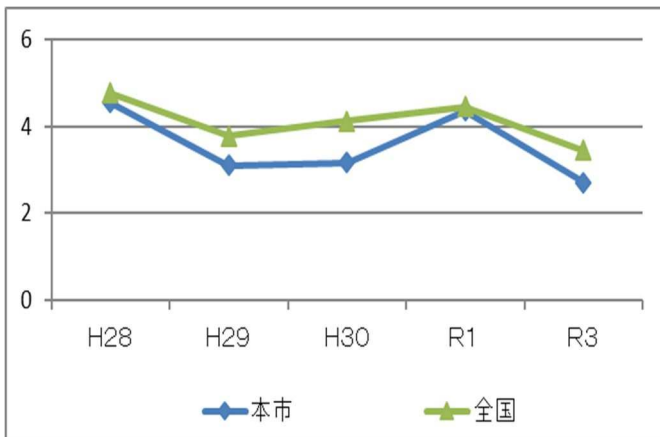


中学校

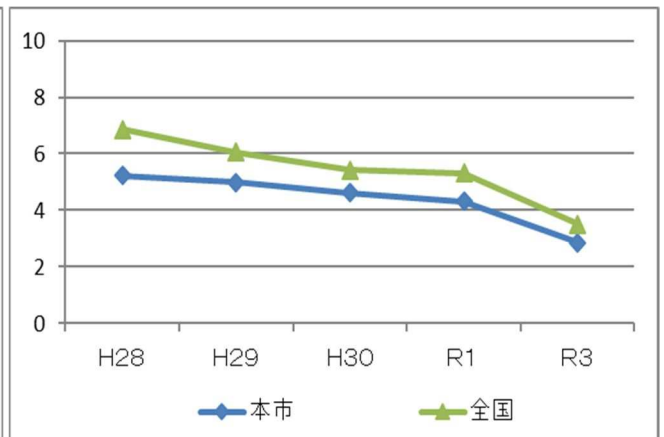


○ 無解答率の経年変化（各教科の無解答率の平均）

小学校



中学校



<小学校>

- ・ 国語は、県平均以上、全国平均と同等という結果でした。「漢字」や「主語と述語」など、基本的な力については良い結果でしたが、「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」力に課題が見られました。
- ・ 算数は、県平均以上、全国平均と同等という結果でした。「面積の求め方」に課題が見られました。

<中学校>

- ・ 国語は、県平均以上、全国平均と同等という結果でした。「文脈の中における語句の意味の理解」について課題が見られました。
- ・ 数学は、県平均以上、全国平均を上回る結果となりました。「問題解決の方法を数学的に説明する」力が良い結果でした。

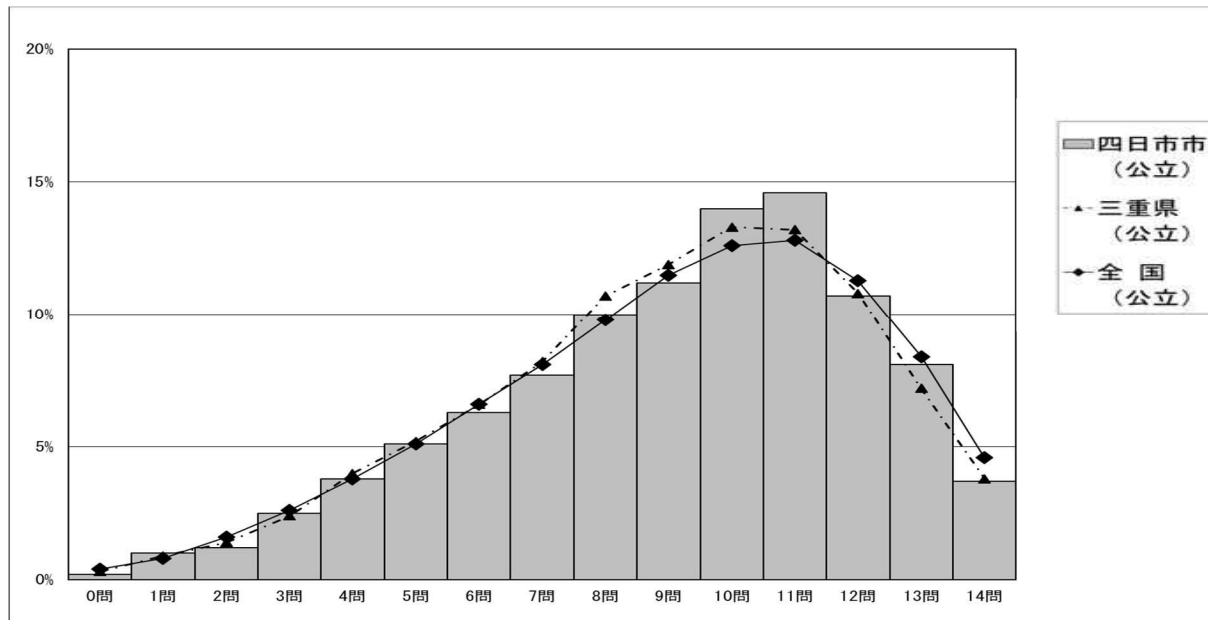
以上の結果から、本市の子どもたちは、義務教育修了時である中学校において、全国と同等あるいはそれ以上の各教科の学力を身に付けているということが分かります。加えて、無解答率の低さを踏まえると、最後まで諦めずに考えるといった学びに向かう力も育まれていることが分かります。

2 教科別 正答数分布グラフ (小学校)

国語

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,440	9.1 / 14	65	10.0	3.0
三重県 (公立)	14,437	9.0 / 14	64	9.0	3.0
全国 (公立)	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1

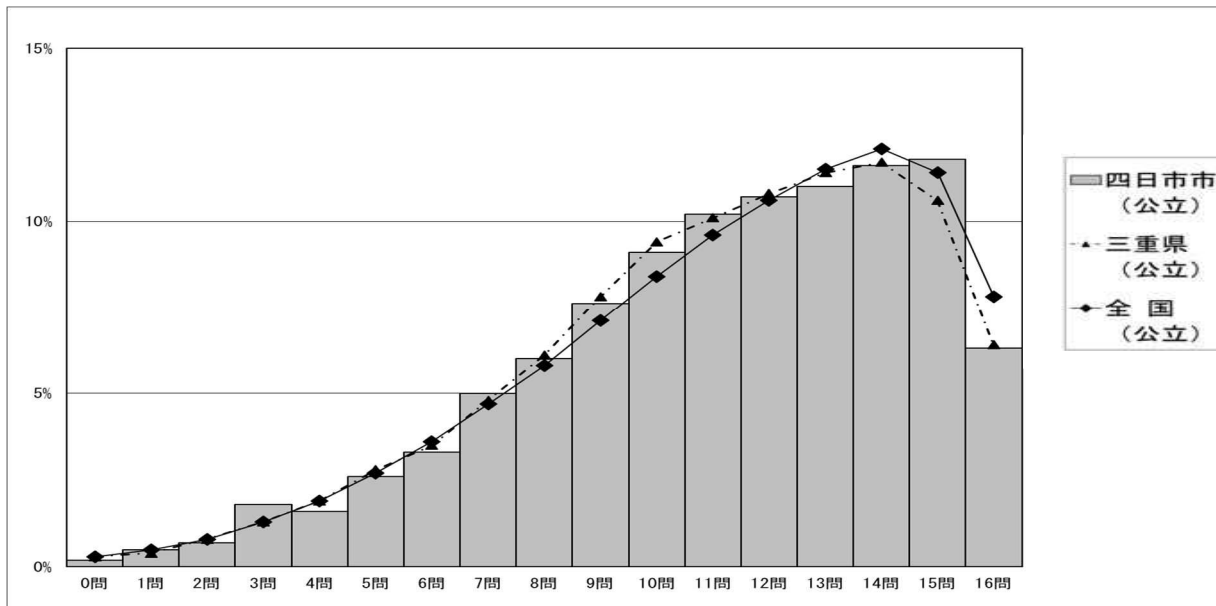
(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))



算数

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,440	11.1 / 16	70	12.0	3.4
三重県 (公立)	14,446	11.1 / 16	69	12.0	3.4
全国 (公立)	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))

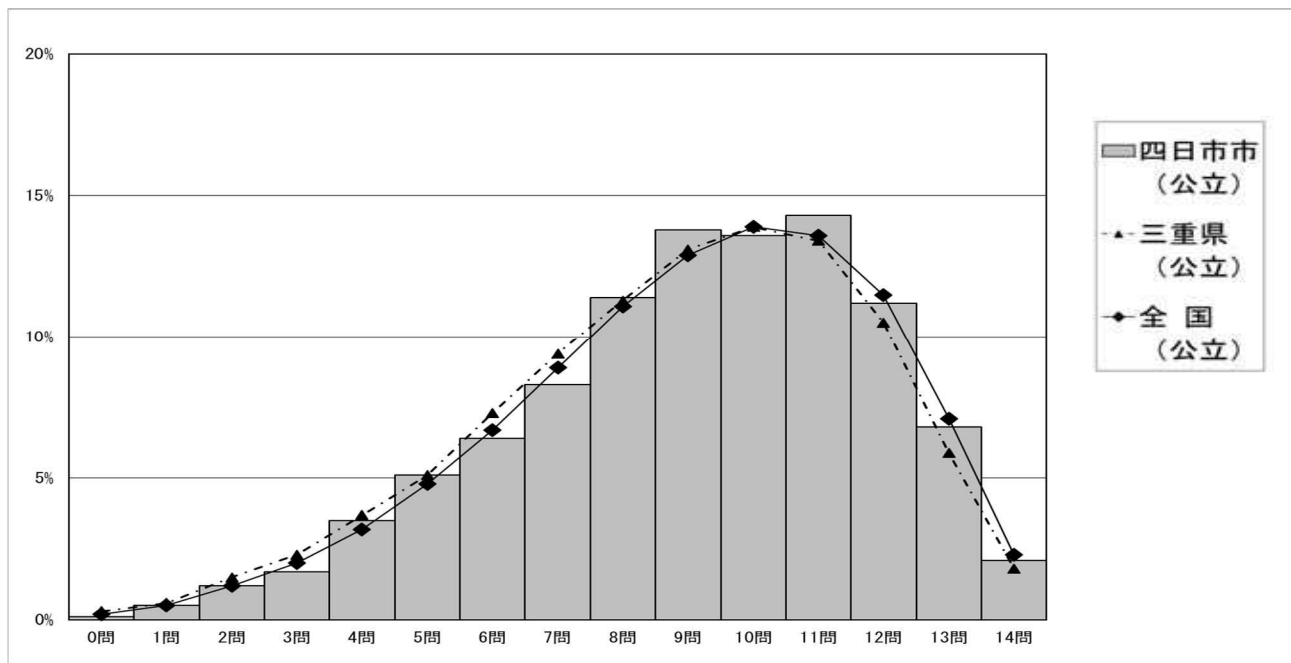


2 教科別 正答数分布グラフ (中学校)

国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,290	9.0 / 14	65	9.0	2.8
三重県 (公立)	13,650	8.8 / 14	63	9.0	2.8
全国 (公立)	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8

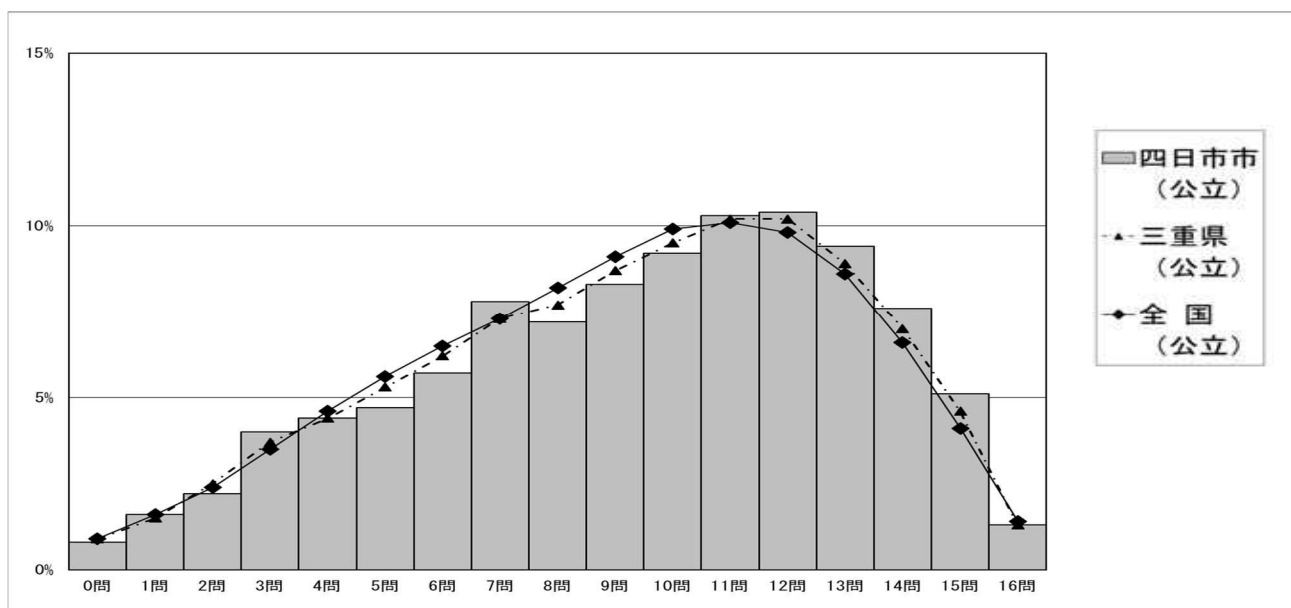
(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))



数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,292	9.4 / 16	59	10.0	3.8
三重県 (公立)	13,633	9.2 / 16	58	10.0	3.7
全国 (公立)	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7

(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))



3 校種・教科別 調査結果概要（小学校）

【 小 学 校 国 語 】

（1）学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語		
	問題数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	3	77.1	77.8
書くこと	2	57.1	60.7
読むこと	3	44.7	47.2
言葉の特徴や使い方に 関する事項	6	71.6	68.3
全体	14	65	64.7

問題形式	国語		
	問題数	四日市	全国
選択式	8	72.0	71.7
短答式	3	73.9	70.6
記述式	3	37.4	40.2
全体	14	65	64.7

（2）本市の解答状況【小学校 国語】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等			問題形式			
				言葉の特徴や使い方に 関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	選択式	短答式	記述式
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	▽							
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	▽							
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	▼							
3三 (1) ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部ウを漢字を使って書き直す（つみ重ね）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	○							
3三 (1) エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部エを漢字を使って書き直す（げんいん）		○							
3三 (2) イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部イで～～部「すく」に「がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	◎							

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について明記

【 小 学 校 算 数 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	算数			問題形式	算数		
	問題数	四日市	全国		問題数	四日市	全国
数と計算	4	62.7	63.1	選択式	6	76.2	76.0
図形	3	54.0	57.9				
測定	3	74.2	74.8	短答式	6	73.8	75.8
変化と関係	3	75.5	75.9				
データの活用	5	76.7	76.0	記述式	4	53.1	53.0
全体	16	70	70.2				
				全体	16	70	70.2

※ 一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 算数】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▼ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等					問題形式			
				数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	選択式	短答式	記述式	
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	▼									
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる	○									

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について明記

3 校種・教科別 調査結果概要（中学校）

【 中 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語			問題形式	国語			
	問題数	四日市	全国		問題数	四日市	全国	
話すこと・聞くこと	3	79.0	79.8	選択式	6	62.4	63.9	
書くこと	3	57.1	57.1		短答式	4	76.1	74.4
読むこと	4	47.7	48.5			記述式	4	56.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	76.4	75.1		全体		14	65
全体	14	65	64.6					

(2) 本市の解答状況【中学校 国語】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式		
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	▽		■			■		
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	▽			■		■		
3二	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う	○				■		■	

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について明記

【 中 学 校 数 学 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	数学			問題形式	数学		
	問題数	四日市	全国		問題数	四日市	全国
数と式	5	65.5	64.9	選択式	2	53.0	52.4
図形	4	53.8	51.4	短答式	9	71.7	70.5
関数	3	58.4	56.4	記述式	5	37.1	35.0
資料の活用	4	54.8	53.8	全体	16	59	57.2
全体	16	59	57.2				

(2) 本市の解答状況【中学校 数学】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
				数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくらることができる	○							
7 (2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	◎							
8 (1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる	○							
9 (1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる	○							
9 (3)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について明記

4 授業改善のポイントについて

小学校国語



活用できる「知識及び技能」を大切にした指導を！

3 自分の考えを主張する文章を書く

設問一：自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。

本設問は、丸山さんが考えた【文章の下書き】の構成についての説明として最も適切なものを選択する問題です。正しい解答は、以下の通りです。

正答：自分の主張を最初と最後に書くという構成にすることで、自分の主張する内容を強調している。

<結果や課題について>

文章全体の構成や展開には、総括する内容を位置付ける箇所によって、「双括型」、「尾括型」、「頭括型」といった違いがあること、また、「双括型」でも自分の主張することは大きく1つである（複数の異なる内容の主張があるわけではない）ことを理解していれば答えることができる問題でしたが、それぞれで躓く児童がみられました。

国語3-1の正答率
本市平均 57.7%
(全国平均 64.8%)

<指導改善のポイントについて>

本設問で問われている力は、文章を書くときだけでなく、人に話をするときや話を聞き取るときにも発揮される力であり、言語能力としては基礎的な「知識及び技能」です。

(1)「なぜ、〇〇か？」を問い、活用できる「知識及び技能」の習得に導く

指導者は、授業で「この文章の主張は〇〇である。よって双括型である。」と教え、それを覚えさせることが大切なのではありません。「なぜ、双括型だと言えるのか。」「なぜ、双括型で書いたのか。」など発問を工夫することで、「双括型」の特徴や効果等について深く理解させていきましょう。指導者としては、子どもたちが次に同様の文章に出合った時に、一人でも身に付けた「知識及び技能」を活用できるようにすることが大切です。

また、その他の「知識及び技能」においても、日常の授業や確認テスト等において、「この文章の要点や要旨は何か。」「文章の中で対比はどの部分か。」といった問いだけでなく、「なぜ、ここが要点や要旨なのか。」「なぜ、対比だと判断できたのか。」といったような問い方を意識することが大切です。このような問い方をすることで、身に付けさせたい「知識及び技能」が具体化され、子どもたちの「分かっているつもり」が浮き彫りになり、活用できる「知識及び技能」に導くことができます。

(2)国語においても繰り返しの指導を大切に

国語の漢字や語句などの指導においては、繰り返し問題に取り組ませていると思われます。しかし、繰り返しの取り組みが大切であることは、その他の「知識及び技能」についても同様です。

例えば、授業の中で、「双括型」の文章の指導をする際には、同様の文章構成で書かれた文章を読ませる、日直のスピーチなどを「双括型」で話させてみる、「尾括型」を「双括型」の文章に書き直させるなど、繰り返し指導し、資質・能力として確実に身に付いたといえるまで学習させてください。

丸山さんの学級では、国語の学習で、気持ちよく学校生活を送ることができるよう、自分の考えを学級の友達に主張する文章を書くことになりました。次は、丸山さんが書いた「文章の下書き」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の下書き】
一人一人が責任をもってかたづけよう

丸山 理子

わたしは、だれもが気持ちよく生活するために、一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だと考えます。

みなさんは、休み時間後の校庭にボールが残されたままアころがっているのを見かけたことはありませんか。わたしは、ときどき見かけることがあります。イ時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にウツみ重ねられています。かたづけわすれたり時間がなくてかたづけられなかったりすることが、エけんいんのだと思います。オ。その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。それでも、きちんとかたづけられ、わたしたちは気持ちよく遊ぶことができると思います。

きちんとかたづけることが大切ならば、そうした人などがかたづけられようという考えもあるかもしれません。確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづけてくれるでしょう。しかし、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。遊具だけではなく、学校の道具や図書館の本も、使った人が元の場所にきちんとかたづけておけば、次に使う人は気持ちよく利用することができます。そのためにも、わたしは、学校の中がきれいになると、わたしたちは気持ちよく生活できます。そのために、わたしは、一人一人が責任をもってかたづけることが大切だと考えます。

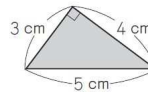


習得した「知識及び技能」を、生きて働くものに！

2 図形の構成の仕方に着目した図形の計量

図形の計量について、図形を構成する要素などに着目し、面積を求めることができるかどうかをみる。

2 図1のような直角三角形があります。



(1) 直角三角形の面積は何cmですか。求める式と答えを書きましょう。

本設問(1)は三角形の面積の求め方について理解しているかを見る問題でした。

正答： $3 \times 4 \div 2$ ($4 \times 3 \div 2$)

算数2(1)の正答率
本市平均 44.1%
(全国平均 55.1%)

<結果や課題について>

全国平均よりも11%低いという結果でした。解答類型から以下の2つの課題が分かります。

面積そのものの概念の理解ができていない

$3 \times 4 \times 5 \div 2$ 、 $3 \times 4 \times 5$ と解答した割合 29.0%

「面積」が図形の広さを表すものであること、「一辺の長さが1cmの正方形の広さを1cm²とする」ことが十分に理解できていないことが分かります。

面積の公式の意味が理解できていない

① 3×4 、 4×3 と解答した割合 10.9%

② $5 \times 3 \div 2$ 、 $5 \times 4 \div 2$ 、 5×3 、 5×4 と解答した割合 6.6%

三角形の面積の公式は、「底辺×高さ÷2」ですが、①は、公式を正しく使えていない、あるいは分かっていたけど÷2を忘れた、ということが分かります。②は、底辺・高さの捉えができておらず、公式を使って面積を求めることができないことが分かります。

<指導改善のポイントについて>

図形の面積を求めるために、公式を使いますが、公式を覚えるだけで活用できるとは言いきれません。活用できるようにするためには、公式の意味や価値(よさ)を理解させることが大切です。

① 具体物を用いた数学的な活動を効果的に取り入れる

公式を使わず図形の面積を求めるには、正方形や長方形の面積に帰着して考えなければなりません。子どもたちは、求めたい図形に補助線を引いたり、等積変形したりしながら、面積の求め方を考えていきます。このように体験的に学ぶことで、概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能の習得につながります。

② 対話的な学びの場を十分確保する

考えを共有する際、教師と子どもの一対一のやり取りではなく、「なぜそのような考え方で求められるのか」、子どもたちが分からなさを出し合いながら、学び場を設定します。教師が教えるのではなく、子どもたちが言葉や図、式を使って実際に操作しながら説明したり、複数の子どもが説明したりすることで理解につながります。

このような授業を行うことで、公式の意味や価値(よさ)が理解ができ、形や向きが変わった図形がでてきても、必要な情報を自ら選び出し、解を導き出すことができます。公式を忘れてしまっても、体験的に学んだことは心に残りやすく、求める過程を思い出し、問題を解くことができると期待されます。



2 意見文を書く

設問一：書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。

本設問は、山田さんが書いた【意見文の下書き】を推敲する場面が設定されています。山田さんが、㊸及び㊹の部分のように文章を直した意図について、最も適切なものを選択する問題です。

正しい解答は、以下のとおりです。

- ㊸…直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
- ㊹…**1**段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

<結果や課題について>

文章を推敲する際には、読みやすく分かりやすい文章にするために、書き手としてではなく、読み手の立場に立って文章を整えることが大切です。本設問の結果から、課題として以下の2点が考えられます。

- ・㊸の部分の文が、直前の文で述べている意見の根拠であることを理解し、より明確にするための文末表現について捉えられていません。
- ・**2**段落が**1**段落で述べている意見の根拠となる具体例を述べたものであることを理解し、具体例をより詳しく説明するために、言葉を加えているものであることを捉えられていません。

<指導改善のポイントについて>

(1) 「筆者はなぜこのような書き方をしたのか」という指導へ

授業においては、内容理解だけでなく、文章構成や展開、表現の仕方等に留意し、どのような工夫と効果があるのかを指導することが大切です。例えば、日常の授業や確認テスト等において、「文章の中で抽象と具体はどの部分か。」「この文章の要旨や要約は何か。」といった問いだけでなく、「なぜ、ここが抽象だといえるのか。」「なぜ、ここが要旨や要約になるのか。」といったように問い方を工夫するなどです。

本設問においても、「Bには、どのような文を入れればよいか」といった問いではなく、「Bの文があることで、どのような効果があるのか」とう問い方となっています。このような問い方をすることが、他の教材でも活用できる「生きて働く力」につながります。

(2) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を関連させた授業づくりを

本設問のように、文や段落の関係を捉える力を身に付けさせるためには、「書くこと」の領域で指導するだけでは十分ではありません。「書くこと」の学習で学んだことを、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域においても意識させることが大切です。例えば、「話すこと・聞くこと」の単元で実際にスピーチをする際にも、発表者が示す具体例が考えを支えるものになっているかを吟味させるなど、「書くこと」の領域以外でも繰り返し学習していくことが大切です。

【文章の下書き】

① SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)などを活用し、インターネット上で文字を通したりたりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。

② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで持ち合わせた相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、持ち合わせた場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何で来るの?」と書いたところ、「どうして行ってるの?」という返信が来て、「はっどさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るの?」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を生まないように「いいねい」に書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。

③ 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやりとりができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を生ま、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。

④ SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉を必ず読み返してから発信するようにしている。

国語2-1の正答率	
本市平均	22.6%
(全国平均)	24.8%



資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的に説明する力の育成

⑧ (2) 相対度数の必要性と意味を理解していること

⑧ (2)の正答率
本市平均 37.0%
(全国平均 36.8%)

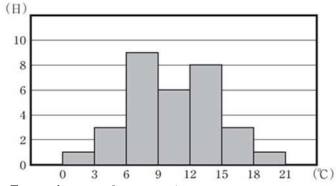
(3) ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること

⑧ (3)の正答率
本市平均 11.3%
(全国平均 11.1%)

① Problem(問題を設定する)

「気温差が大きい日や小さい日があることが気になり・・・」

気温差のヒストグラム



「山が2つあるように見える・・・」

② Plan(計画を立てる)

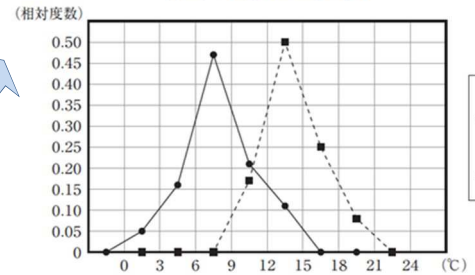
「日照時間が長い日は、気温差が大きい傾向にあるのではないかな・・・」

③ Data(データをまとめて整理する)

気温差(℃)	6時間未満		6時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ~ 3	1	0.05	0	0.00
3 ~ 6	3	0.16	0	0.00
6 ~ 9	9	0.47	0	0.00
9 ~ 12	4	0.21	2	0.17
12 ~ 15	2	0.11	6	0.50
15 ~ 18	0	0.00	3	0.25
18 ~ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00

④ Analysis(分析する)

気温差の度数分布多角形



⑤ Conclusion(結論を出す)

「日照時間が6時間以上の日は6時間未満の日より気温差が大きい傾向」

<出題の趣旨>

- 日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、それらを基に判断の理由を説明することが求められる場合があります。その際、グラフや代表値を用いてデータの傾向を捉え説明することが大切です。調べたことを度数分布表やヒストグラムなどに整理して分析し、それらからデータの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるかどうかを解答として求めました。

<指導改善のポイントについて>

- 第1学年の『D 資料の活用』の内容である。目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や資料のちらばりに着目してその資料の傾向を判断できるようにすることがねらいです。そのねらいを達成するために、次の2点の学習場面を授業の中に設定をすることが重要です。
 - ① 資料の分布の様子を的確に捉え、説明する学習の場面
 - ② 授業の中に統計的な問題解決な方法を学習する場面

【ポイント①目的に応じた思考ツール(度数分布多角形など)の活用】

資料を整理して情報を読み取り、それを基に資料の傾向を判断できるようにするために、収集した資料を目的に応じた度数分布表やヒストグラムで表して分布の様子を捉えることができるようにします。そのため、総度数の異なる2つの集団を扱う際には、相対度数を用いると各階級ごとの比較が可能になることや、相対度数を使った度数分布多角形を用いると2つの資料の分布の特徴を捉えやすくなることを確認するなど、それぞれの表やヒストグラムの特徴を押さえておきます。

【ポイント②「PPDAC」から、さらに新たな「P」への気づき】

日常生活や社会の事象を統計的に考察するためには、データを収集・整理し、傾向を捉えて説明する一連の活動の後、問題解決の過程を振り返り、処理の仕方を見直す場面を設定することが大切です。その上で、必要に応じて新たなデータを収集したり、視点を変えて整理したりして分析するという活動を取り入れていきます。

5 児童生徒質問紙の結果について

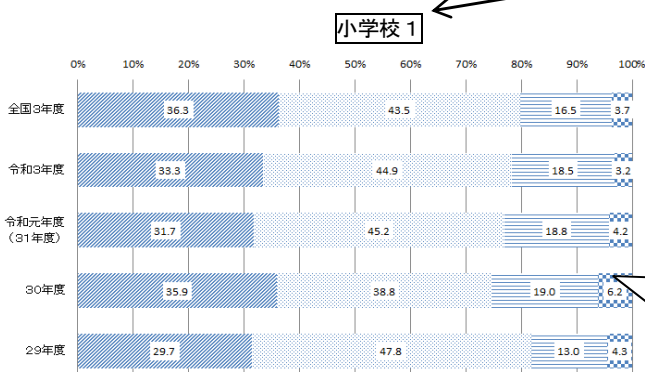
【グラフの見方】

(例) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

質問紙の質問番号

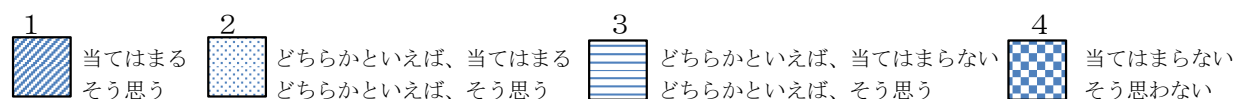
令和3年度
全国の回答状況

本市の年度別の
回答状況



左から
1・2・3・4
の回答を表す。

- ※ 数値の合計は100にならない場合がある。
- ※ 回答方法の記載がないグラフの表示は以下のとおりである。
- ※ 肯定回答は1を選択、肯定的回答は1・2を選択した場合を表す。



(1) 教科の意識に関する質問

◇肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

- ・ 国語の勉強は大切だと思いますか。
- ・ 国語の授業の内容はよく分かりますか。
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- ・ 算数・数学の勉強は好きですか。
- ・ 算数・数学の勉強は大切だと思いますか。
- ・ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。
- ・ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- ・ 英語の勉強は好きですか。

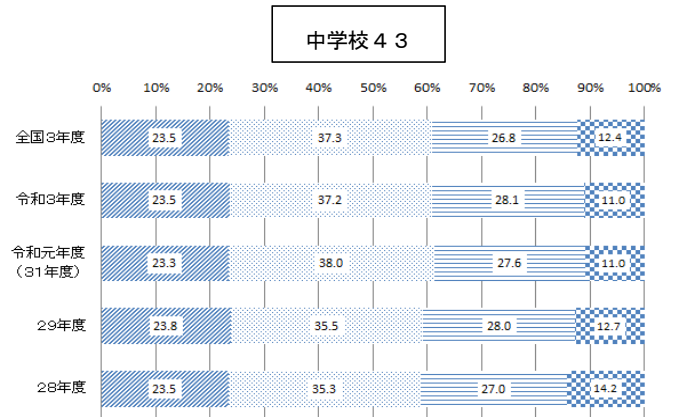
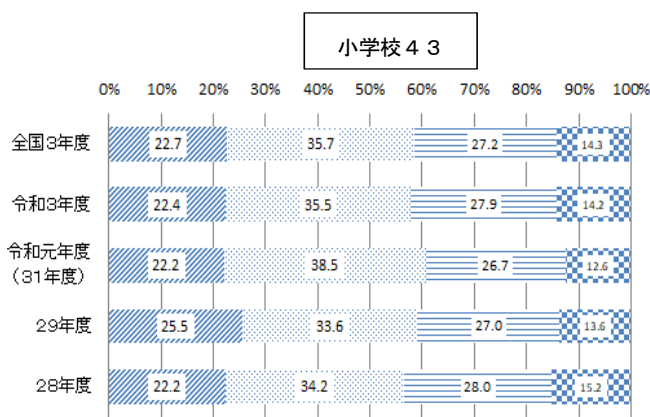


◆肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を下回っている質問

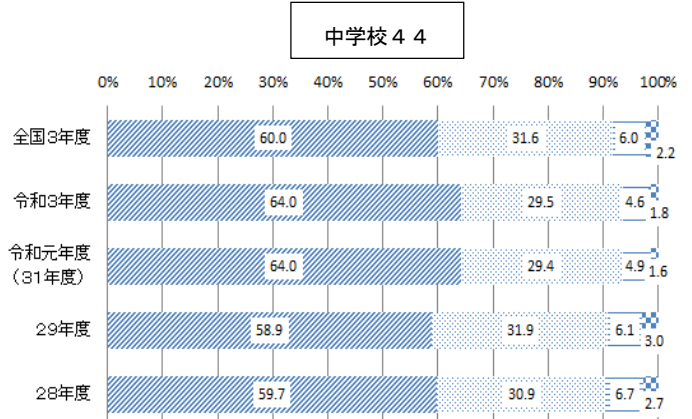
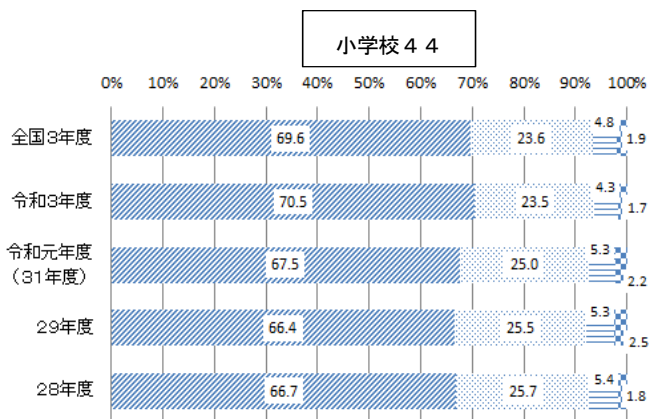
<小中とも>

- ・ 国語の勉強は好きですか。

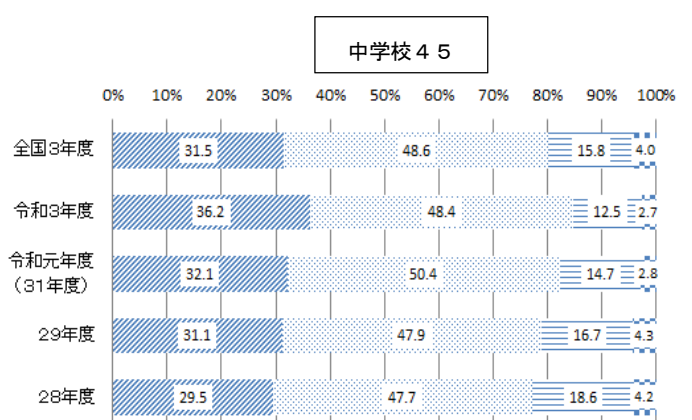
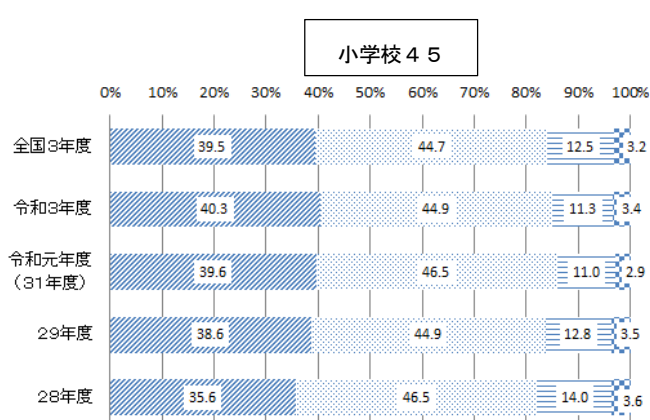
○ 国語の勉強は好きですか。



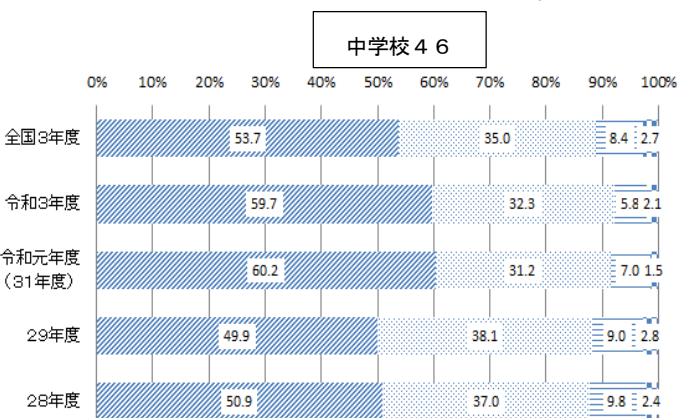
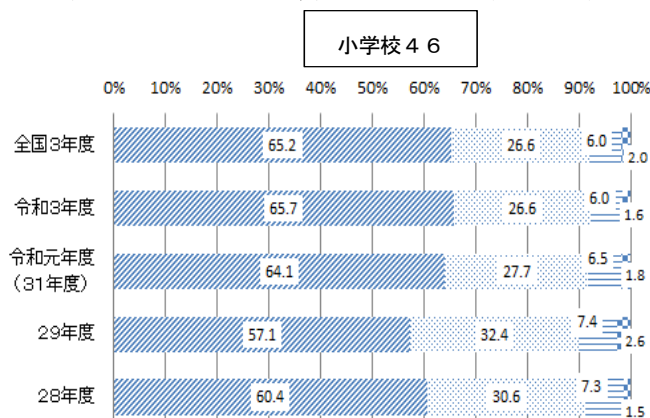
○ 国語の勉強は大切だと思いますか。



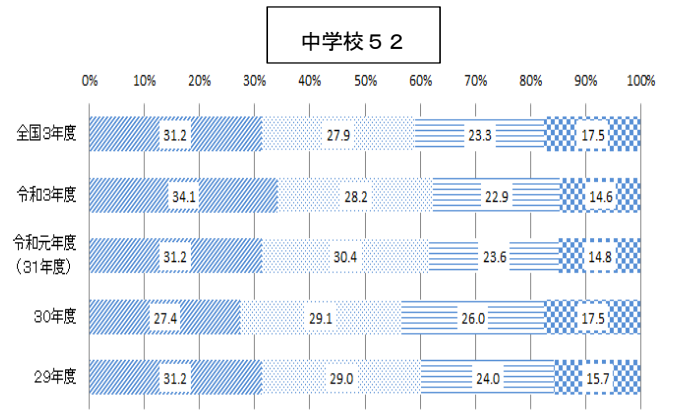
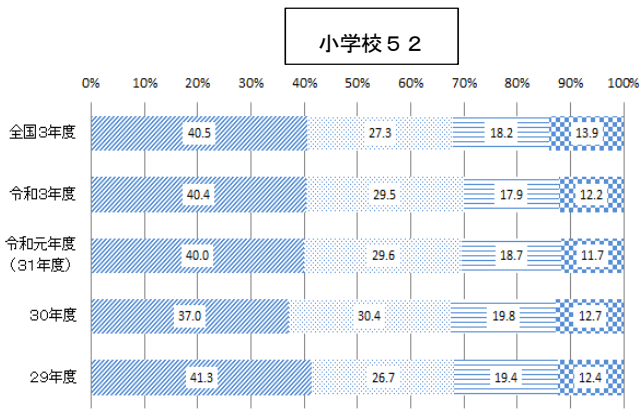
○ 国語の授業の内容はよくわかりますか。



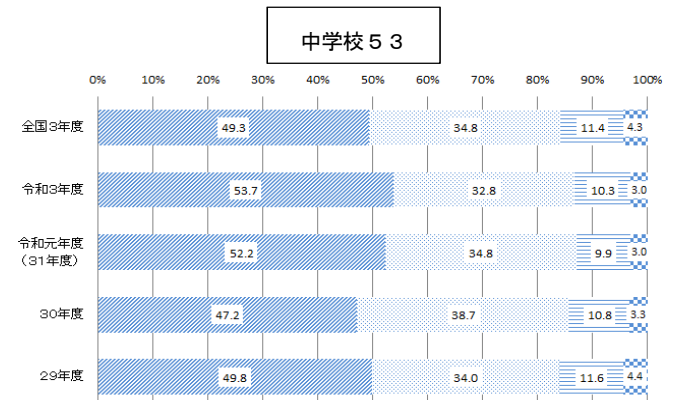
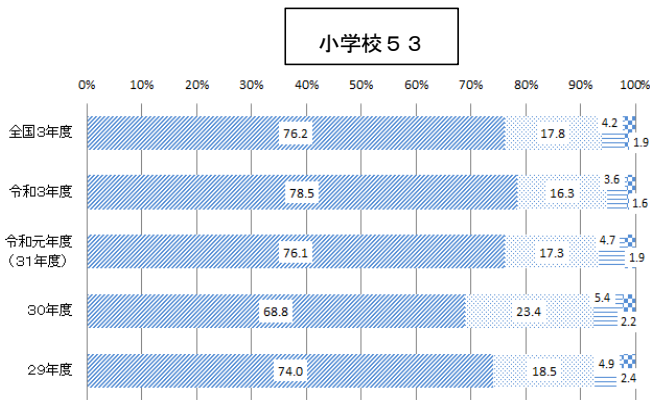
○ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



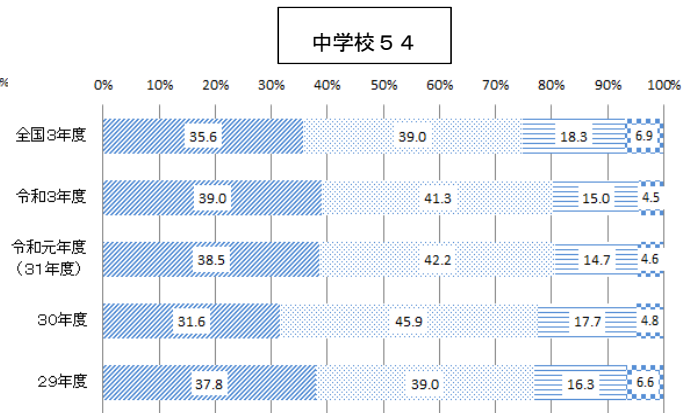
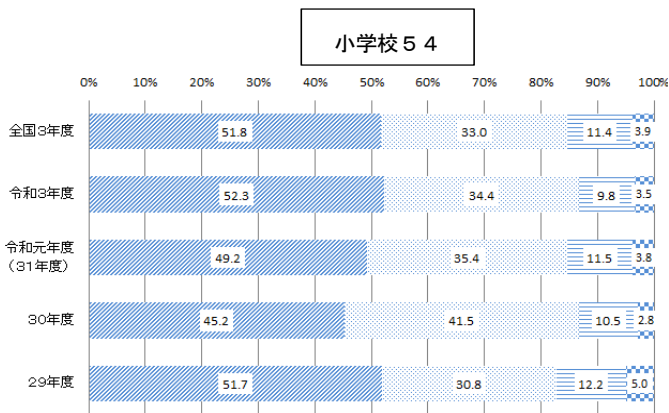
○ 算数・数学の勉強は好きですか。



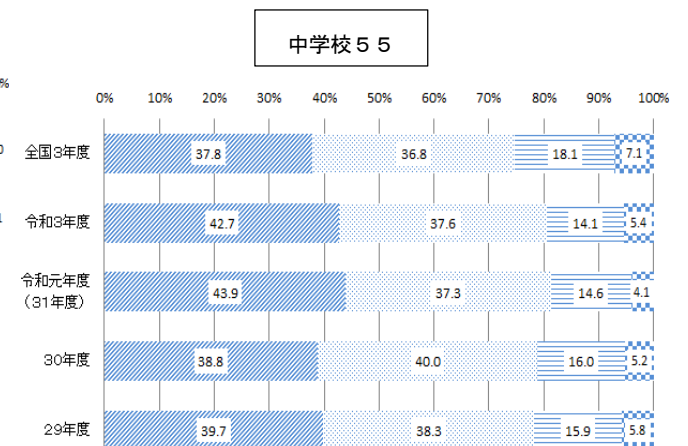
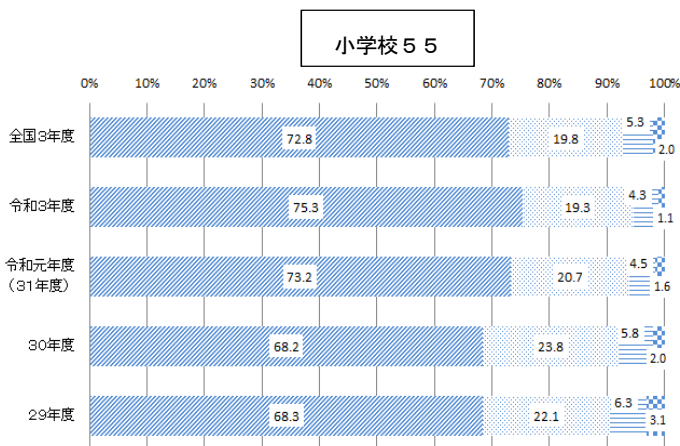
○ 算数・数学の勉強は大切だと思いますか。



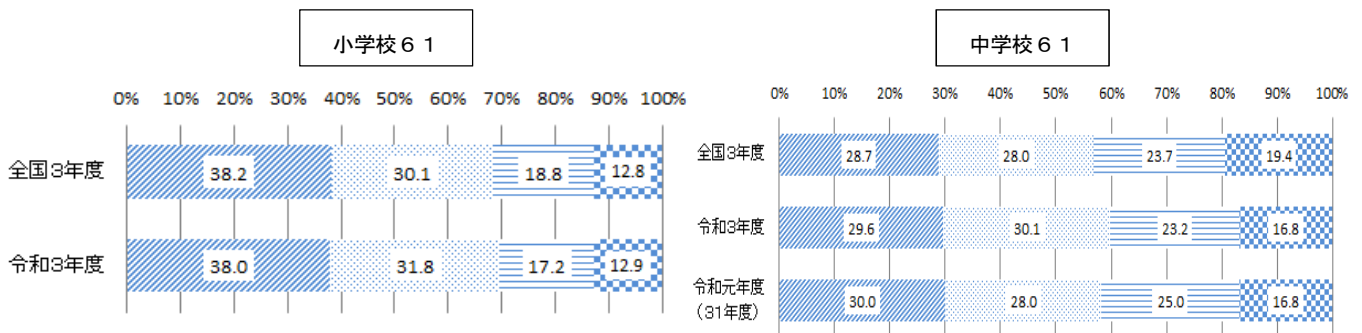
○ 算数・数学の授業の内容はよくわかりますか。



○ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



○ 英語の勉強は好きですか。



<考察>

○ 本項「教科の意識に関する質問」については、ほとんどの質問において、本市の肯定的回答の割合が全国平均を上回っていました。

「国語（算数・数学）の勉強は大切だと思いますか」、「国語（算数・数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問は、ともに全国平均を上回っていました。学習指導要領では、児童生徒が知識や技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を養ったり、新たな学びに向かったりするだけでなく、学びを人生や社会に生かそうとしたりする力を高めていくことが大切だと示されています。そのためにも、各教科の勉強の大切さを実感し、日常生活や社会に生かそうとする態度を育成していくことが大切だと考えます。

○ 「国語（算数・数学）の授業の内容はよく分かりますか」については、小学校で全国平均を1.0%、中学校で全国平均を4.5ポイント上回っていました。本市の児童生徒は、毎日の授業において「わかる・できる」といった思いを積み重ねて学んでいることが分かります。しかし、肯定的回答ではない児童生徒がいることを踏まえると、今後もすべての児童生徒の授業に対する充実感を高めていく必要があると考えています。

○ 「英語の勉強は好きですか」という質問については、小中学校ともに全国平均を上回っていました。本市の英語教育充実に向けた取り組みが結果につながっていると考えられます。

○ 「算数・数学の勉強は好きですか」という質問は全国平均を上回っていましたが、「国語の勉強は好きですか」という質問については、全国平均を下回っていました。今後は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、教科の本質的なおもしろさに迫る授業改善を推進するとともに、コロナ禍においてもICT機器等を効果的に活用することで、子どもたちの「分かる・できる」思いを積み重ねていきます。

(2) 「学習の基盤となる力」に関する質問

◇肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

- ・ 5年生までに受けた授業で（1、2年生のときに受けた授業で）、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
- ・ 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- ・ 5年生までに受けた授業（1、2年生のときに受けた授業）で、学級の友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。
- ・ あなたの学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。
- ・ 5年生までに受けた授業（1・2年生のときに受けた授業）では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
- ・ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

<中のみ>

- ・ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

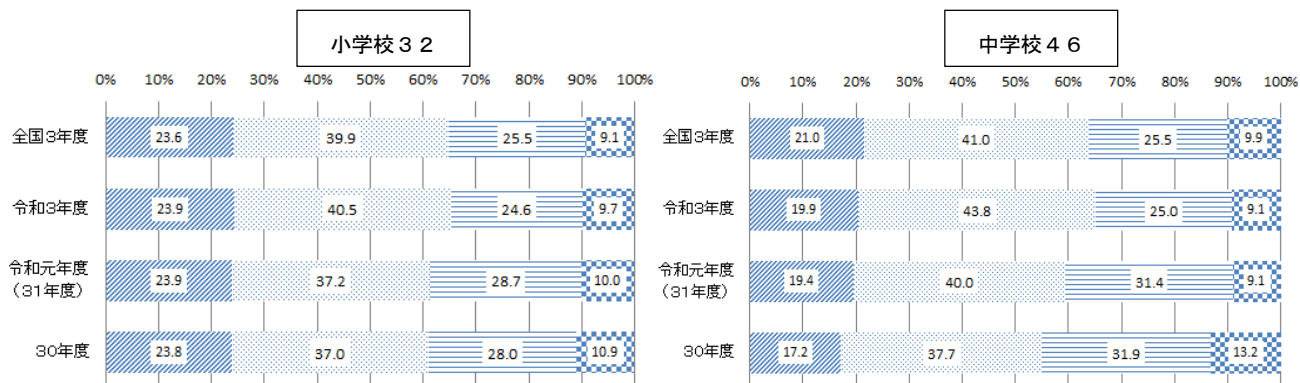
◆肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を下回っている質問

<小中とも>

- ・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

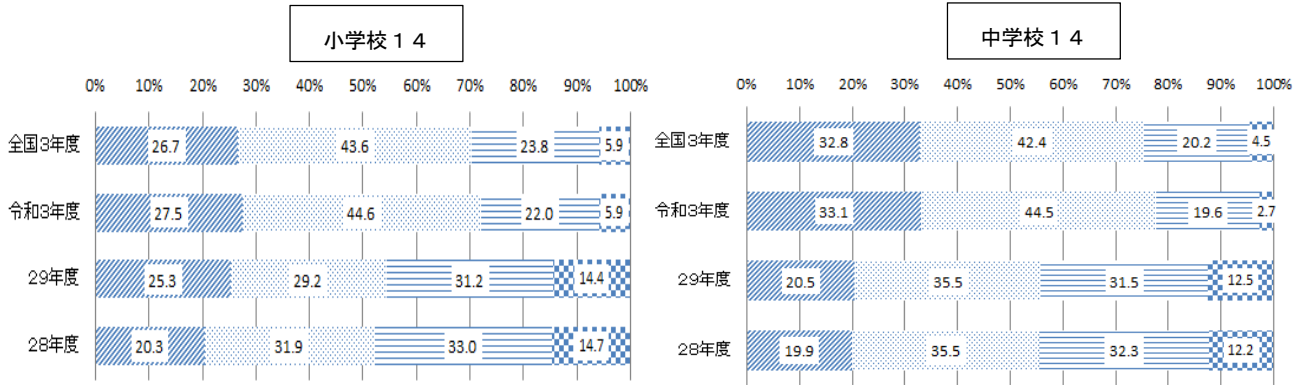
<「言語能力」に関わって>

- 5年生までに受けた授業で（1、2年生のときに受けた授業で）、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

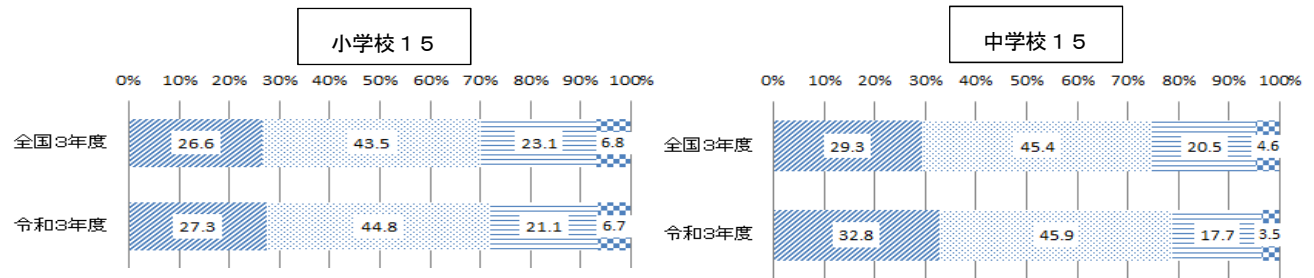


○ 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。

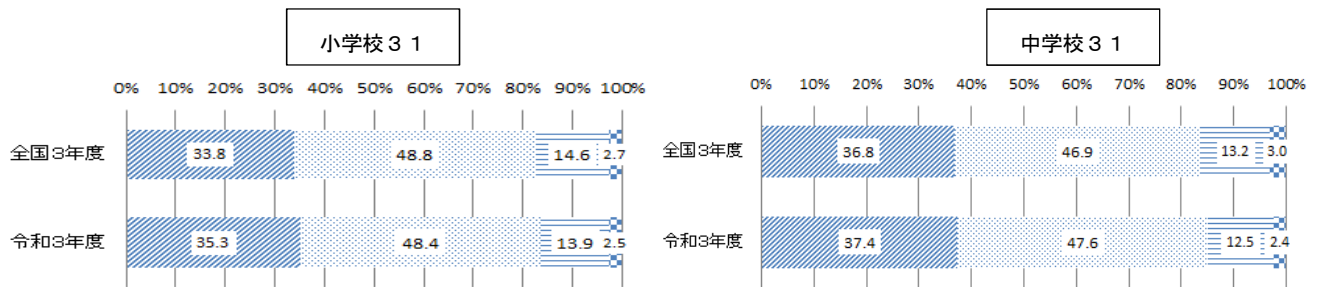
(※H29年度までは、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」)



○ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

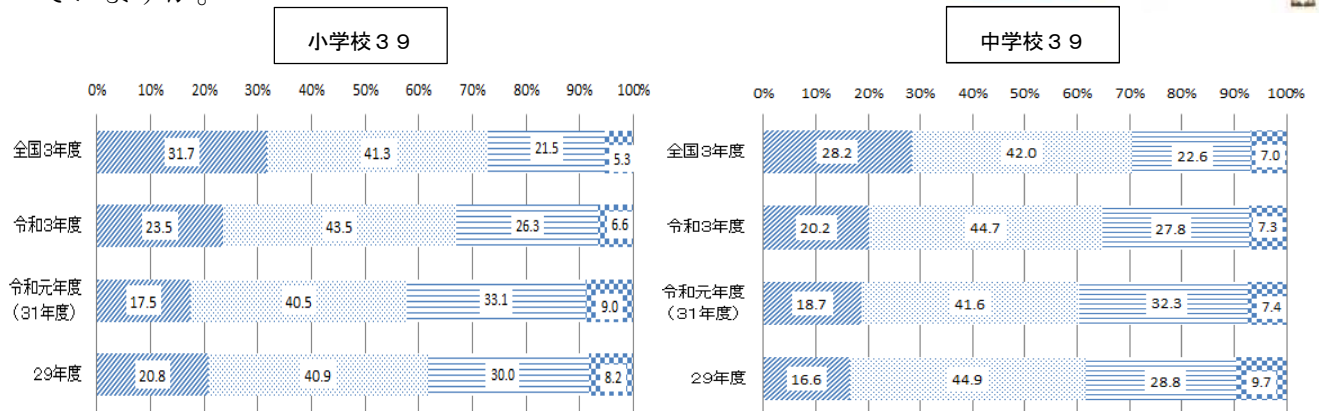


○ 5年生までに受けた授業（1、2年生のときに受けた授業）で、学級の友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。

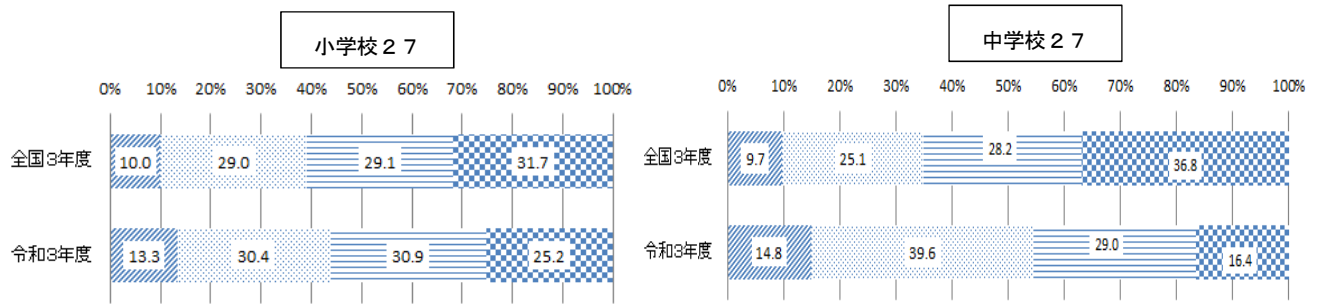


<「情報活用能力」に関わって>

○ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

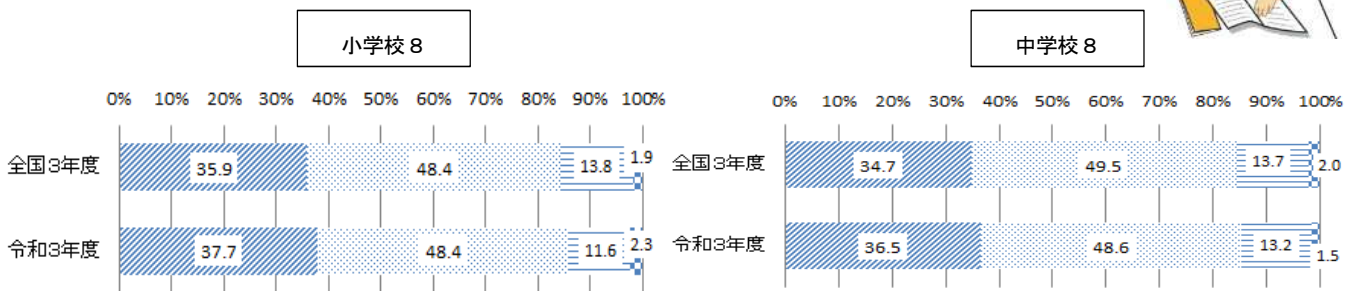


○ あなたの学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。

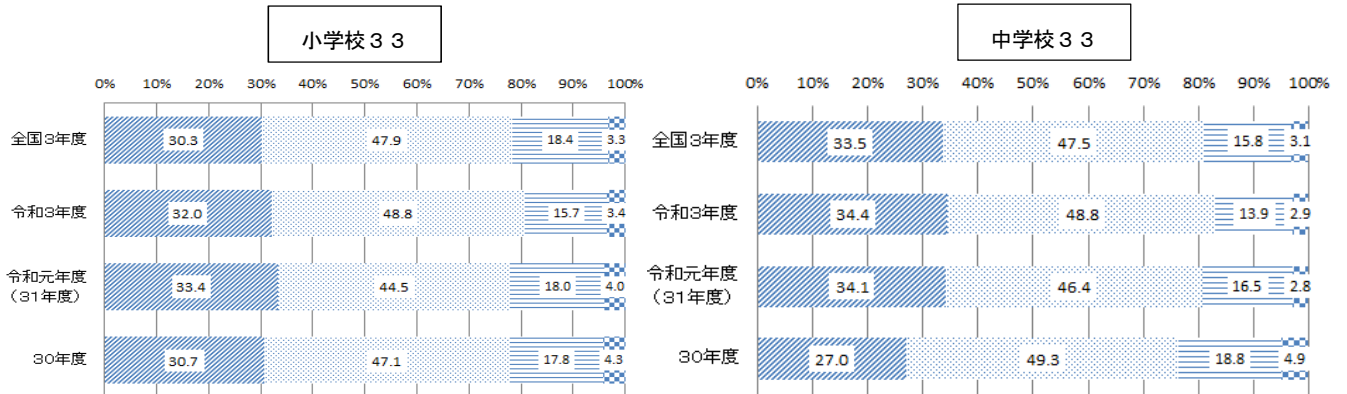


<「問題発見・解決能力」に関わって>

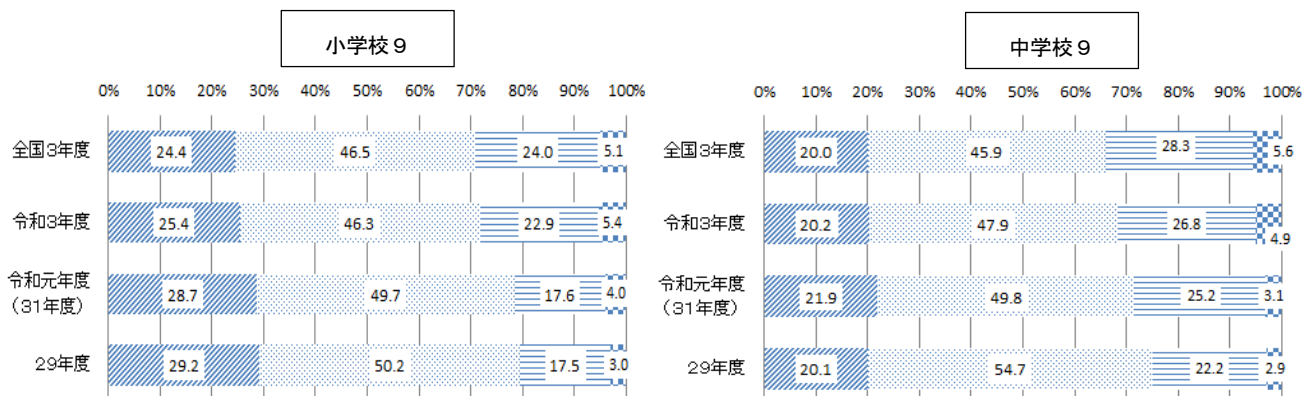
○ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。



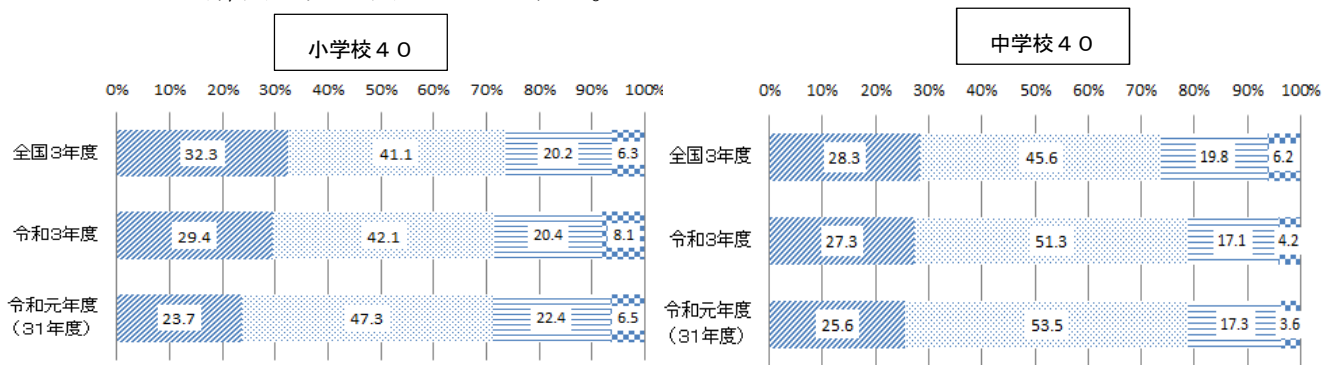
○ 5年生までに受けた授業(1・2年生のときに受けた授業)では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



○ 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。



- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



<考察>

- 「学力」と言われると、「漢字が読める・書ける」や「面積を求めることができる」など各教科の「知識及び技能」をイメージすることが多いと思います。しかし、子どもたちが変化の激しい社会を豊かに生きていくためには、各教科等において示されている資質・能力だけでなく、教科の枠を超えた力の育成が必要だと言われています。
- 本項で挙げている「言語能力」、「情報活用能力」、「問題発見・解決能力」は、「学習の基盤となる力」として、すべての教科等において教科横断的に育成していく資質・能力になります。
- 「言語能力」については、小中学校ともにすべての質問において全国平均を上回っていました。経年で見ても、改善傾向であることが分かります。今後も、新教育プログラム柱1で取り組んでいる「読解力向上の『20の観点』」等を活用するとともに、発達段階に応じた言語活動を充実させて、児童生徒の資質・能力を育んでいきます。
- 「情報活用能力」に関わる質問（ICT関係の質問）について、本冊子に掲載していない質問も含めて、全国平均と比較して大きく上回っています。しかし、情報を活用する力は、パソコンやタブレットを活用するだけでなく、「総合的な学習の時間」など、様々な教科の学習で育んでいく必要があります。今後も教科の特質に応じて情報を活用する場面を設定し、教科の内容とともに涵養していきます。
- 「問題発見・解決能力」については、これまで「四日市モデル」（問題解決能力向上のための5つのプロセス）等を意識して、各教科等の授業の中で大切に育てていきました。現在は、新型コロナウイルス感染症対策の中で、問題解決的な授業設定が難しい内容もありますが、継続して授業改善を進めていきます。

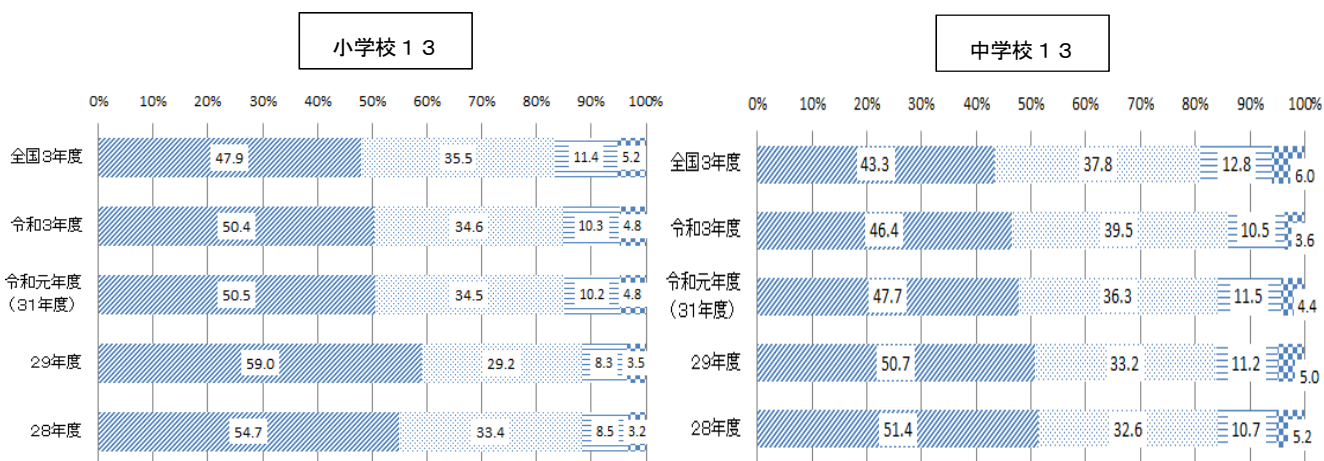
(3) 学校生活等の意識に関する質問

◇肯定的回答が、全国の結果を上回っている質問

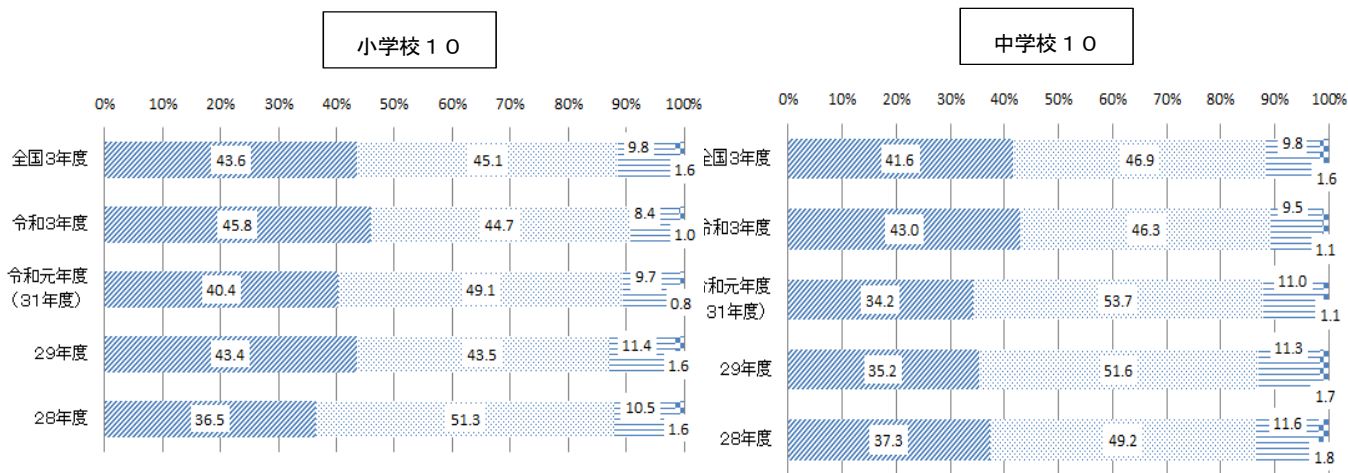
<小中とも>

- ・ 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ・ 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- ・ 友達と協力するのは楽しいと思いますか。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

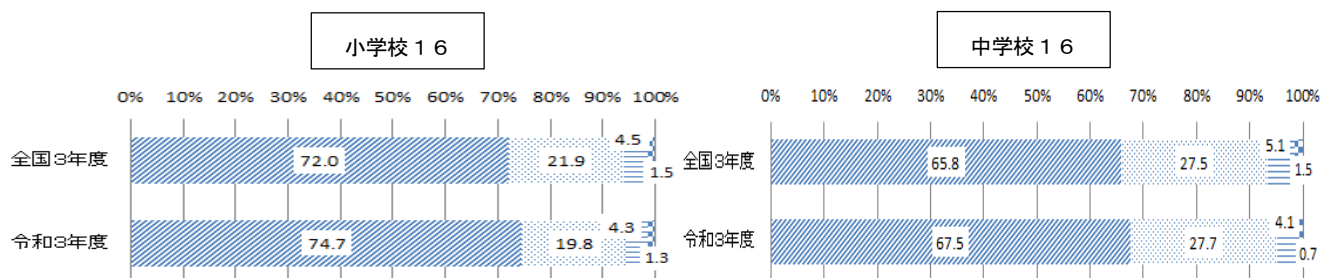
○ 学校に行くのは楽しいと思いますか。



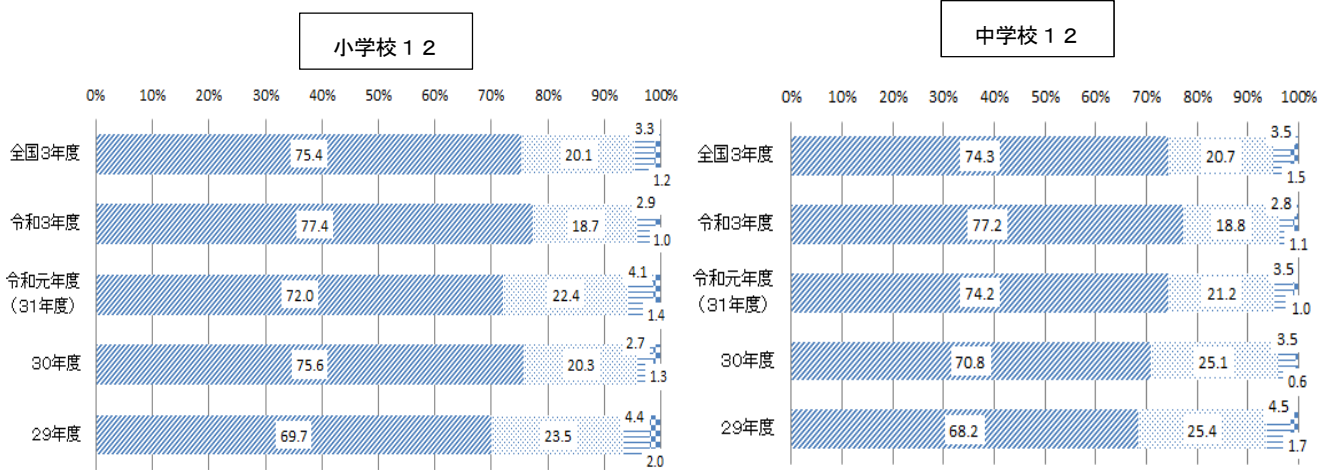
○ 人が困っているときは、進んで助けていますか。



○ 友達と協力するのは楽しいと思いますか。



○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



< 考察 >

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問については、小中学校ともに肯定的回答の割合が全国平均を上回っていました。

本質問は、その他の質問を総括する重要な質問であると考えています。小学校において、全国平均を上回っていますが、前回調査と比較して割合が減少しています。新型コロナウイルス感染症による教育活動の制限等が影響している可能性は否定できません。

今後も、肯定的回答を100%に近づけていくために、日々の授業を充実させたり、仲間づくりの取り組みを積み重ねたりしていく必要があると考えています。

- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問は、ともに全国平均を上回っていました。本市の子どもたちは、学校において様々な友達や先生と関わり合う中で、このような意識を育てていることが考えられます。

今後も、各学校において、教育活動全体を通して児童生徒の自己肯定感等を高めることで、自分だけでなく周りを気遣える子どもを育てていきます。

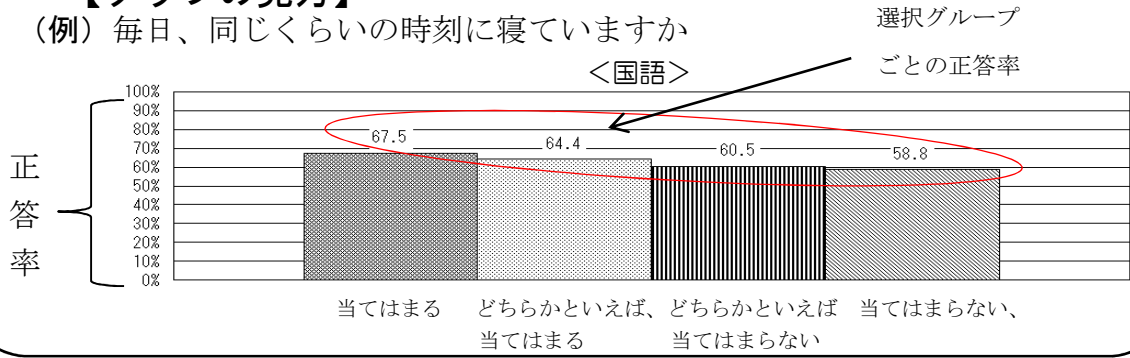
- 「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問についても、全国平均を上回っていました。子どもたちが今まで経験してきた教育活動の中で、友達と協力し何かをやり遂げたり、ともに課題を解決したりしてきた経験が結果につながっているものと考えています。

現在は、コロナ禍ということで、友達と関わり合う活動については、一定の制限がかかっていますが、これからも友達と協力する活動については、学校教育の中で大切にしていきたいと考えています。

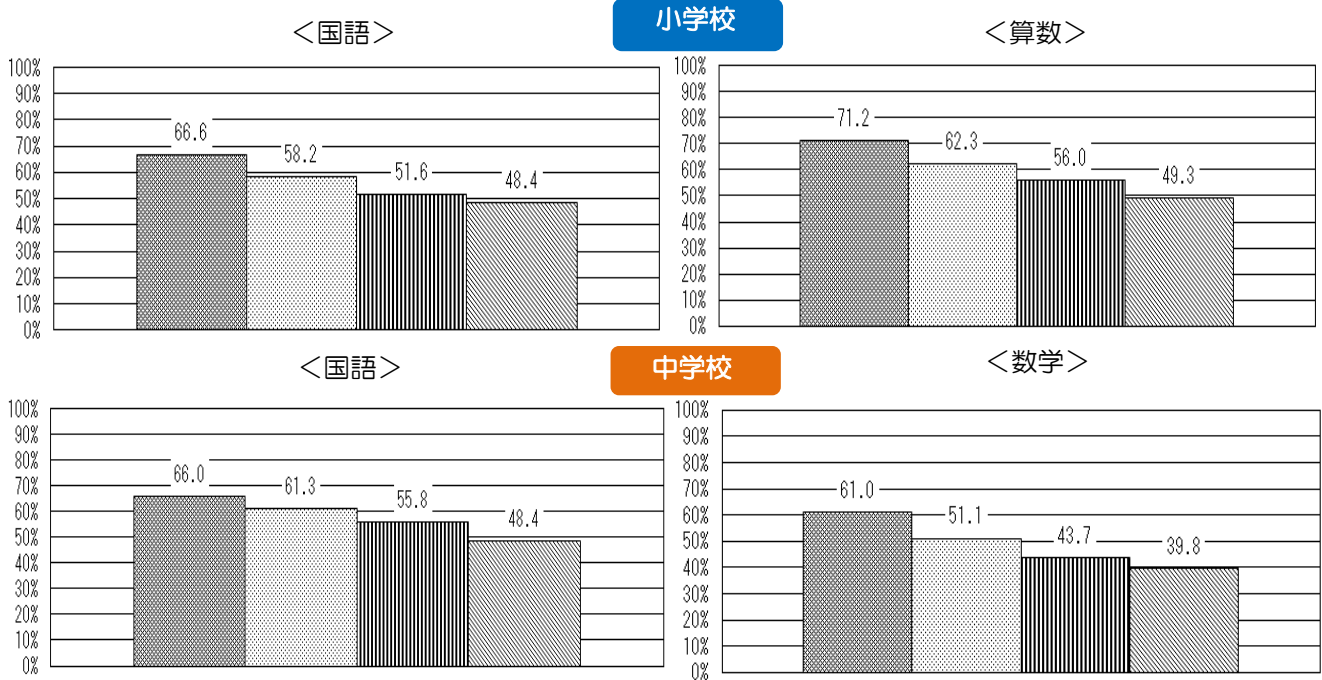
(4) 生活習慣と学力の関連

【グラフの見方】

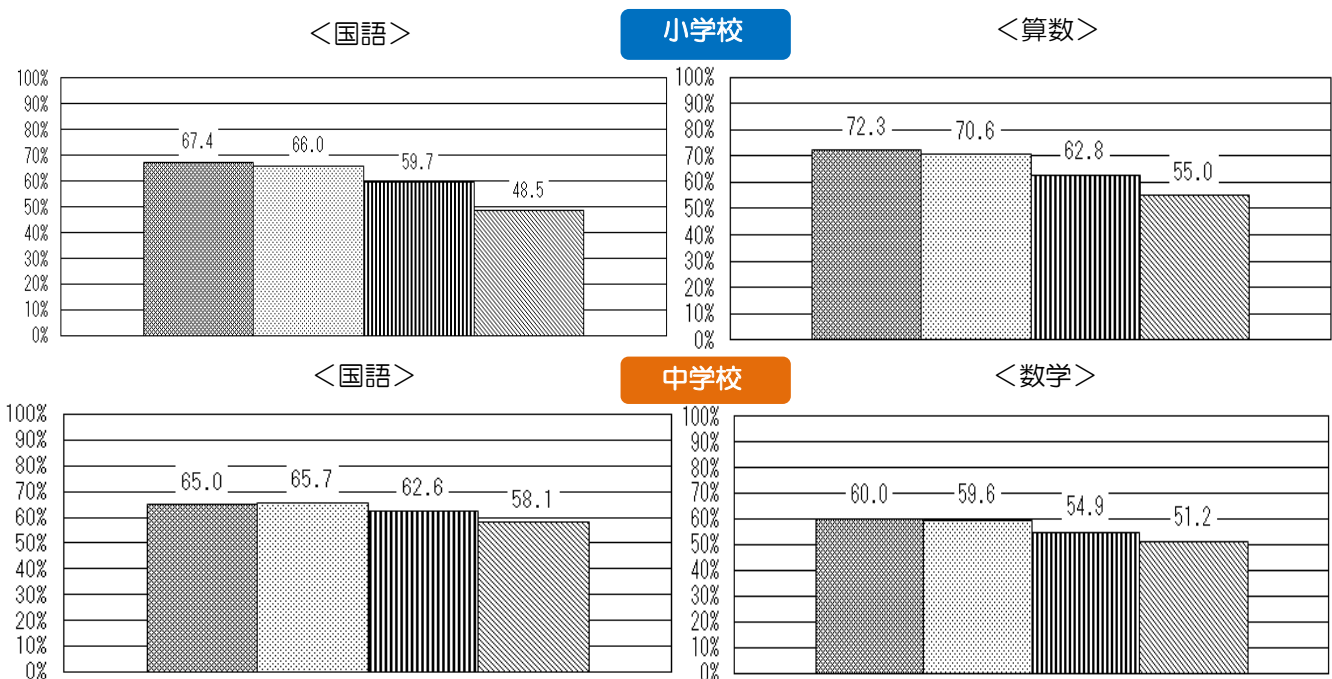
(例) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



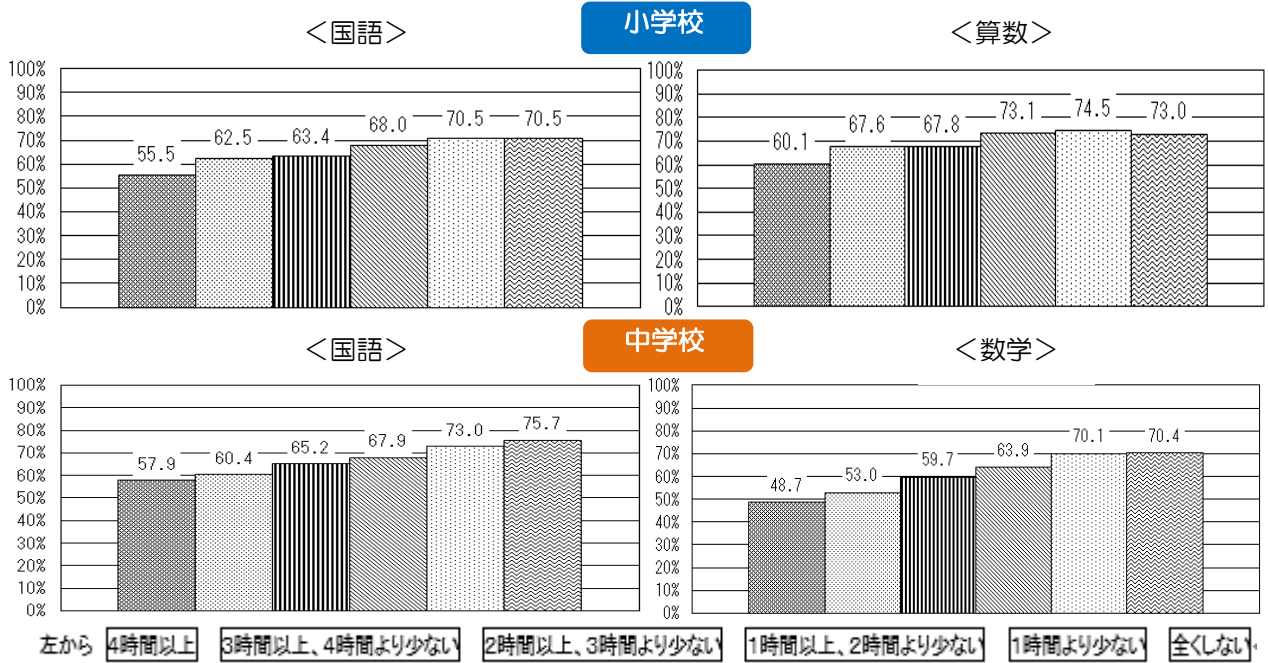
○ 朝食を毎日食べていますか。



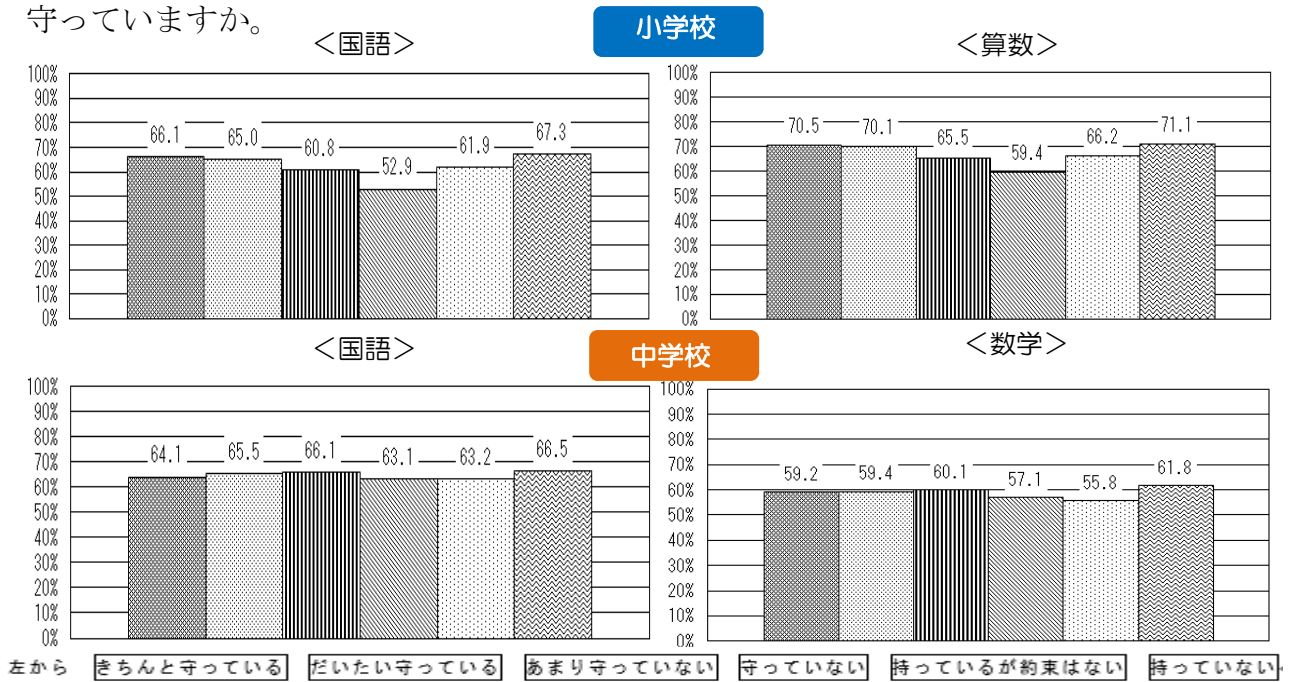
○ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



- 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



<考察>

- 以上の結果から、生活習慣に関わる各質問について、学力との相関関係は高いことが分かります。今後も、睡眠や朝食など、基本的な生活習慣を整えていくように指導することが大切です。
- 「スマートフォン等の約束を守っているか」という質問は、明確な相関関係は見られませんでした。しかし、今の子どもたちは情報化社会の中で生きていくことを踏まえると、今後も学力との相関や情報端末の関わり方については、注視していく必要があると考えます。

(5) 新教育プログラム (①②③⑤) と関連する質問

《四日市市新教育プログラム》



令和2年度からスタート！現在の関連する学力は？

夢と志を持ち 自らの未来をつくるよっかいちの子

学習や生活の基盤となる言語能力

社会人になっても通用する問題解決能力

情報社会に主体的に参画する情報活用能力

1 読む・話す・伝えるプログラム

2 論理的な思考で直面くつきりプログラム

3 英語でコミュニケーション力 四日市プログラム

4 運動大好き！走・跳・蹴りプログラム

5 夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム

6 四日市ならではの地域資源活用プログラム

柱1

読む・話す・伝えるプログラム

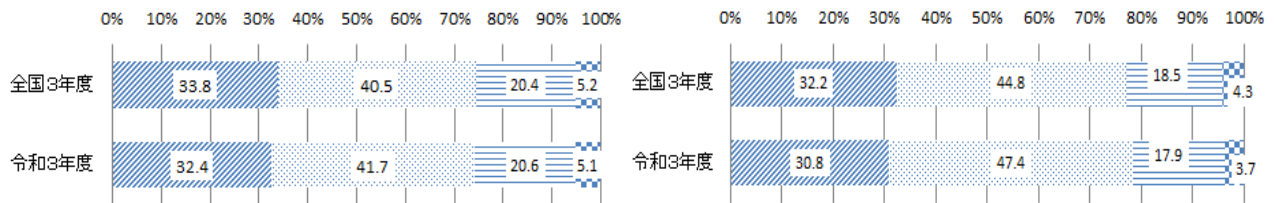
読解力向上について重点的に指導するとともに、読む・話す・書くといった活動を通して、学校教育活動全体で言語活動の充実を図る。それにより、「文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成します。



※ 左：小学校 右：中学校

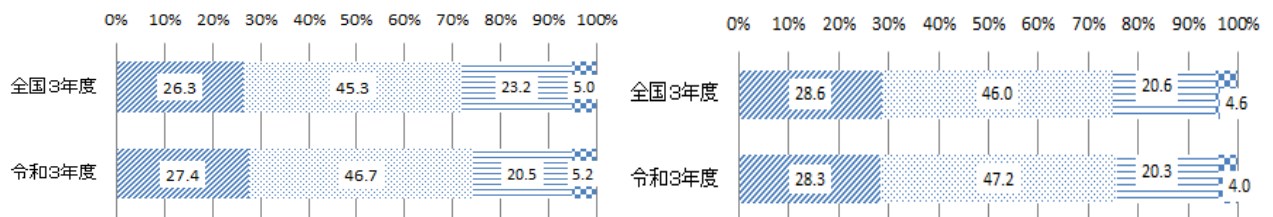
読む

- 国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。



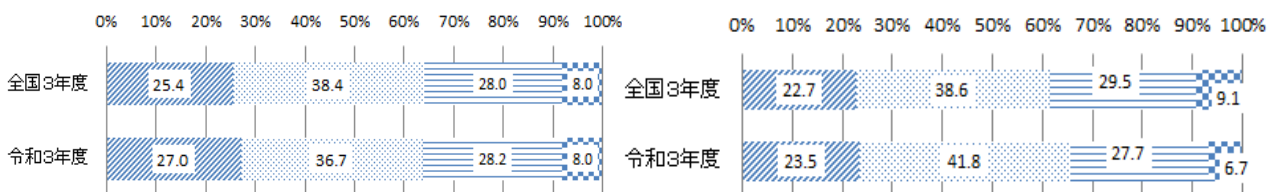
書く

- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして（自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように）書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。



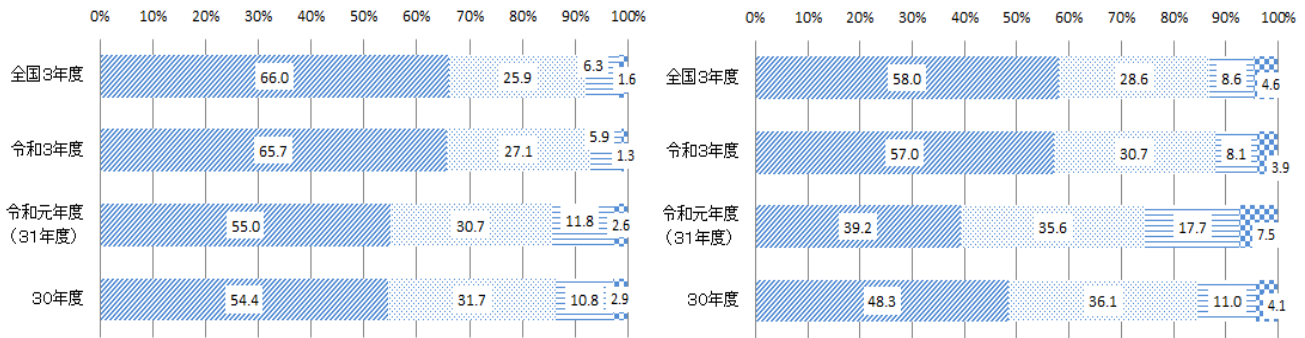
話す・聞く

- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。

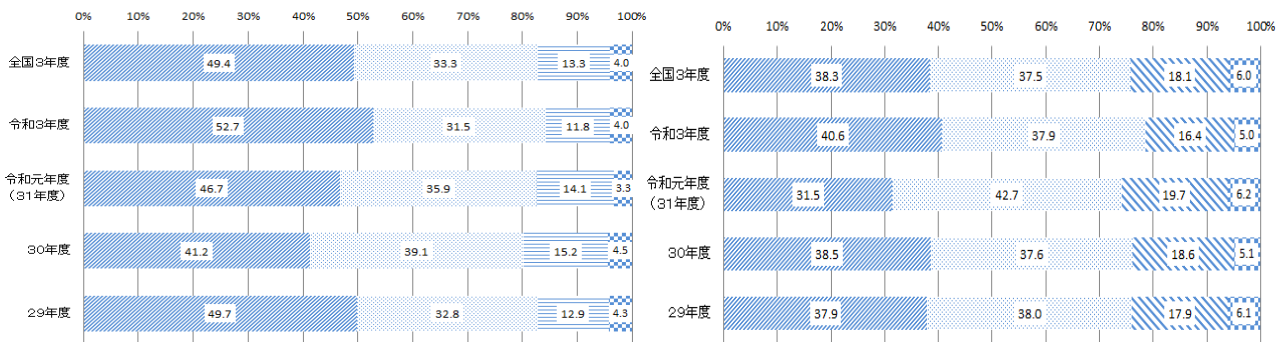




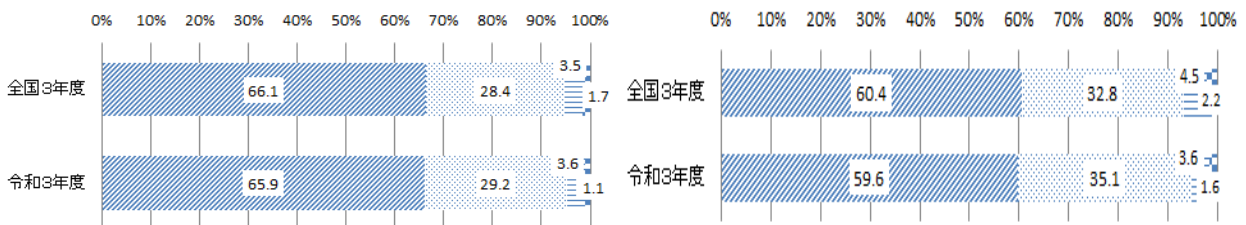
○ 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。



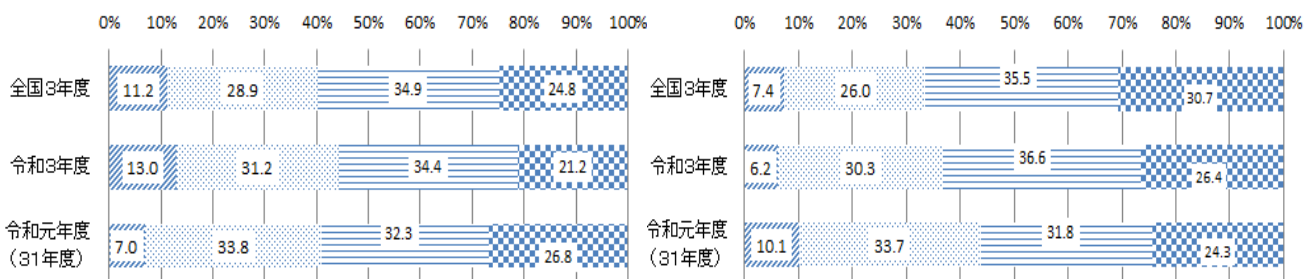
○ 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。



○ 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



○ 5年生まで受けた授業(1、2年生のときに受けた授業)で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



柱3

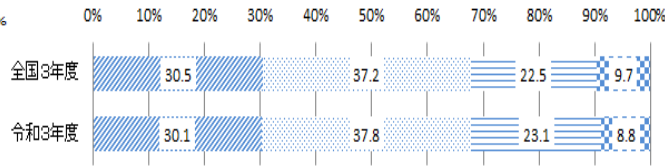
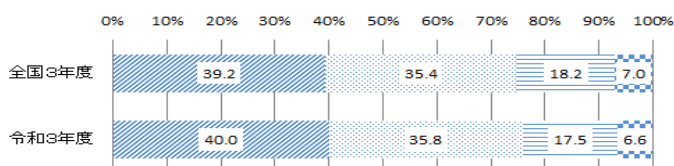
英語でコミュニケーションIN四日市！
プログラム

就学前から英語に出会い、聞く・読む・話す・書くの4技能を統合した言語活動により、発達段階に応じた英語コミュニケーション能力を育成し、英語で四日市を語ることのできる子どもたちを育てます。

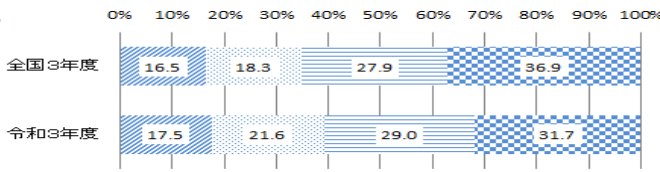
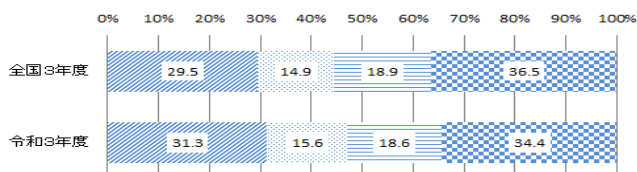


○ 5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。(小のみ)

○ 1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。(中のみ)



○ これまで、(小：学校の授業やそのための学習以外で)(中：学校の授業やそのための学習以外で)、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)。



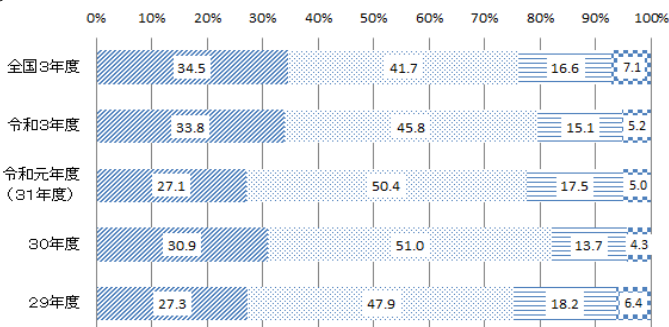
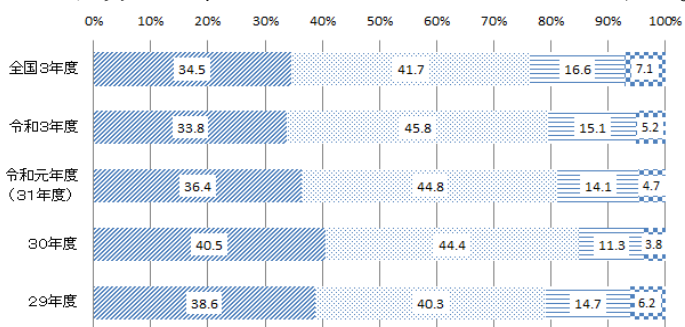
柱5

夢と志！
よっかいち
輝く自分づくり
プログラム

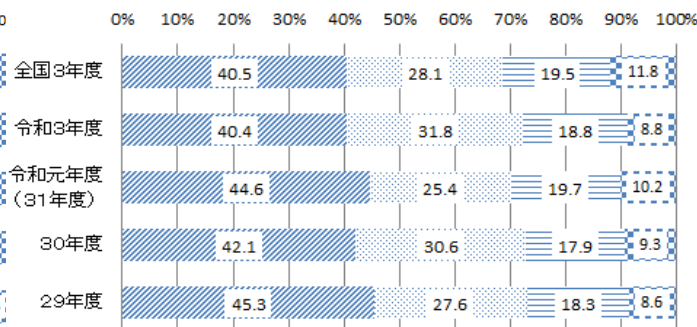
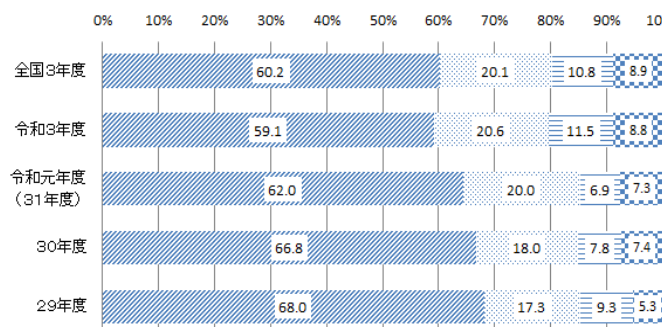
体系的なキャリア教育の取り組みを通して、子どもたちが自身の夢や志の実現に向けて「学び続ける」ために、「何のために学ぶのか」という目的意識や、「学ぶこと」と社会とのつながりを意識した主体的な学習意欲を持つとともに、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を育成します。



○ 自分には、よいところがあると思いますか。



○ 将来の夢や目標を持っていますか。



6 学校質問紙の結果について

(1) 全国学力・学習状況調査問題の活用

ほとんどの質問において、全国平均と比較すると肯定的な回答をした割合は高くなっています。各学校で自校の結果を分析し、その結果を校内研修会などにおいて、指導改善に結び付けていることが分かります。

しかし、「学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている。」の質問については、中学校の肯定的回答の割合が42.9%と低くなっており、全国平均と比較しても3.9ポイント下回っています。国語や数学の結果分析については、各教科が中心になってきますが、そこからみえる課題については、国語や数学以外の教科でも意識できることが多くあります。今後は、分析から得られた指導上の課題については、校内研修等で共通理解するように働きかけていきます。

※肯定的な回答をした割合

番号	調査項目	種別	本市	全国
	全国学力・学習状況調査の問題(教科に関する調査)を具体的にどのように活用していますか。			
88-1	①学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員で出題意図を確認している。	小	100.0	91.0
		中	95.2	88.9
88-2	②学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員以外の教員も出題意図を確認している。	小	91.7	73.4
		中	90.5	61.5
88-3	③学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている。	小	83.3	65.0
		中	42.9	46.8
88-4	④問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行っている。	小	94.4	69.8
		中	81.0	59.9
88-5	⑤学力・学習状況の把握のため、授業の中で取り上げている。	小	94.4	77.9
		中	90.5	77.4
88-6	⑥学力・学習状況の把握のため、児童生徒への家庭学習等の課題の参考としている。	小	94.4	69.8
		中	61.9	64.7
88-7	⑦学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている。	小	66.7	49.4
		中	90.5	77.5
88-8	⑧教員が独自に作成する教材の内容を検討する際に参考としている。	小	83.3	66.1
		中	95.2	81.5
88-9	⑨保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している。	小	72.2	45.9
		中	57.1	43.6

(2) 全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善

全国学力・学習状況調査の調査問題は、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資

質・能力について、具体的なメッセージとなるように作成されています。そのため、学校においては教員の授業改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立てることが大切です。

本市では、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、各教科等の結果分析を行うように指示しています。そのことが以下の結果に表れていると考えています。

今後も、結果分析を丁寧に実施し、そこから指導上の課題等を見つけ、授業改善につなげていきます。

番号	調査項目	種別	本市	全国
	全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、具体的にどのように活用していますか。			
90-1	①児童生徒の傾向や課題を把握するために活用している。	小	100.0	98.6
		中	95.2	97.0
90-2	②学校が実施する学力・学習状況調査等、他の調査結果を組み合わせた分析を行っている。	小	88.9	75.7
		中	95.2	73.2
90-3	③学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用している。	小	83.3	54.8
		中	71.4	65.1
90-4	④学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている。	小	80.6	48.1
		中	85.7	77.0
90-5	⑤学力向上等の施策の成果・課題、費用対効果等の評価に活用している。	小	88.9	67.0
		中	71.4	60.2
90-6	⑥保護者や地域の人の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している。	小	88.9	56.7
		中	71.4	51.7
90-7	⑦課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用している。	小	94.4	87.7
		中	90.5	76.2

(3) 学習習慣の確立と学習補充の充実

小中学校のほとんどの質問において、全国平均と比較して高い割合を示していることが分かります。

しかし、「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度まで、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか」という質問については、中学校において全国平均を4.4ポイント下回っていました。学校での学習と家庭学習については、互いに深く関連しているべきものであり、特に教員から与えた課題については、その結果や課題等を評価し、指導の改善につなげていかなければなりません。

今後は、「取り組んだか」の確認だけでなく、その結果を教員が自身の授業につなげていけるように働きかけていきます。

①家庭学習について

番号	調査項目	種別	本市	全国
85	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(教科共通)	小	100.0	90.6
		中	95.2	85.5
86	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(教科共通)	小	100.0	95.5
		中	100.0	91.9
87	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか(教科共通)	小	97.2	89.4
		中	81.0	85.4

②補充学習について

番号	調査項目	種別	本市	全国
49	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。	小	91.6	85.4
		中	90.5	86.5
55	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。	小	100.0	94.6
		中	100.0	92.7

(4) 授業づくりの工夫

小中学校のすべての質問において、全国平均を上回っています。今後もこれらの質問の内容については、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点として意識していきます。

番号	調査項目	種別	本市	全国
34	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。	小	91.6	87.7
		中	95.2	84.5
35	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか。	小	100.0	96.6
		中	100.0	95.1
36	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	小	97.3	88.1
		中	95.3	86.9
37	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	小	100.0	81.4
		中	85.7	72.6
38	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れましたか。	小	88.9	73.1
		中	90.5	67.6
48	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。	小	100.0	98.3
		中	100.0	97.8

(5) 小中の連携（学びの一体化）

小中学校すべての質問において、全国平均を大きく上回っています。平成18年度から全中学校区で学びの一体化として、幼小保小中の連携を進め、「確かな学力」「健やかな成長」をめざし、取り組みを進めてきた結果だと考えています。

今後も中学校区で連携して、校区の子どもたちを共に育てていく指導体制をしっかりと整備していきます。

番号	調査項目	種別	本市	全国
77	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。	小	100.0	59.1
		中	81.0	65.0
78	前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。	小	91.6	57.4
		中	100.0	65.1

(6) ICTの活用

小中学校すべての質問において、全国平均を大きく上回っています。今後も、すべての教科等の授業の際に効果的に活用するとともに、児童生徒に対しても、自らの学習を支えるツールとして活用できる力を育てていきます。

番号	調査項目	種別	本市	全国
71	あなたの学校では、教職員と児童生徒がやりとりする場面でコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。	小	75.0	44.7
		中	90.4	41.5
72	あなたの学校では、児童生徒同士がやりとりする場面でコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。	小	72.2	30.1
		中	71.4	25.8
74	あなたの学校では、児童生徒が1人で活用する場面でコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。	小	88.9	74.6
		中	80.9	62.6

7 今後の取り組みの重点

《主として学校において》

1 全国学力・学習状況調査の活用等

(1) 学力調査に関わって

- 全教職員が問題を解くことで、出題のねらい、今後求められる力等を把握するとともに、調査実施後、児童・生徒の解答類型から、つまずきを把握・分析して指導の重点を明確にする。
- 全国の結果との比較や、経年での変化を把握することで、学校としての強み・弱みを明らかにし、全校及び学年で、学力向上に向けた取り組みを進める。

(2) 学習状況調査に関わって

- 学習状況調査の結果と学校の取り組みと照らし合わせることで、指導の効果を検討・改善する。
- 学校質問紙を併せて分析することで、児童・生徒と指導者の意識のズレを把握し、指導改善につなげる。

(3) 「学びの一体化」と関わって

- 本調査で得られた強み・弱みについて、中学校区で共通理解を図り、発達段階に応じた指導方法等の連携を図る。
- 家庭学習や補充学習について、従来の方法を見直すなど、さらなる改善に取り組む。
- 保護者への働きかけの充実を図る。
 - ・ 家庭学習の定着、自主学習ノートによる定着、シラバスやHPを活用した家庭への啓発 等
 - ・ 補充学習の充実、長期休業及び放課後等の学習、「全体」と「個別」の補充学習の検討 等
 - ・ 課題について調べ自分の考えをまとめるなど、知識・技能の活用を目指す宿題 等

2 問題解決的な授業づくり（「四日市モデル」問題解決能力を育む5つのプロセス）

ポイント① 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科・単元・授業において育成する資質・能力を明確にする。

ポイント② 子どもたちが主体的・対話的に学ぶ視点を大切にし、単元・授業を構想する。

(1) 第1プロセス「問題の理解」

- 学習課題等の設定により、児童生徒の問題意識や解決しようとする意欲を喚起させる。【学習課題等の提示】
 - ・ 身に迫った切実感のある課題を提示するなど、児童生徒が考えざるを得ない状況をつくる。
 - ・ 「～を活用して」など知識や技能の活用や、「ペアで～しよう」など協働的な学びを促す。
 - ・ 「なぜ？」と根拠や原因を考えさせたり、「～を説明しよう」などアウトプットを意識させたりする。
 - ・ 実生活、実社会などにつながる学習課題や問題等を工夫する。
- 学習課題等と合わせた「授業のゴール」を子どもの姿として設定する。【評価規準の明確化】

(2) 第2プロセス「問題の特徴づけと表現」

- 問題意識等を大切にしながら、解決するための糸口がつかめるように支援する。【問題解決の見通し】
- 見通しを持たせる場面において、ICT機器を効果的に活用する。【指導者のICT機器の活用】

(3) 第3プロセス「問題の解決」

- ねらいに合わせた主活動（言語活動等）を設定する。【主活動の時間確保と言語活動の充実】
- 児童生徒の問題意識等に合わせて、自力解決をしたり、互いの考えを交流したりすることができるようにする。
【個の問題意識に合わせた解決（学び合いを含む）】
- 児童生徒のつまずきとそれに合わせた支援を準備する。【つまずきへの適切な支援】
- 児童生徒がICT機器や思考ツール等を活用できるようにする。【児童生徒のICT機器等の活用】

(4) 第4プロセス「解決方法の共有」

- 児童生徒が自分の考えを説明したり、資料等を提示して根拠を示したりするような学習活動の充実を図る。
【アウトプットする場の設定】

(5) 第5プロセス「問題の熟考と発展」

- 授業のねらいや学習活動を踏まえ、児童生徒自身が「何を学んだのか」、「何ができるようになったのか」を実感できる振り返りを行う。【学習の振り返り】
- 他の単元へのつながりや教科横断的な視点、さらに日常生活への活用を意識する。

【実社会・実生活につながる汎用的能力の視点】

3 「学習の基盤となる資質・能力」の育成

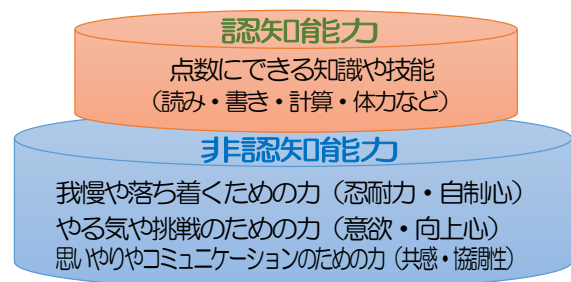
各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）について、教科横断的な学習を充実させることで、その資質・能力の涵養を図る。

言語能力	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の働きや役割に関する理解、言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解等 ○情報を理解したり、文章や発話により表現したりするための力 <ul style="list-style-type: none"> ・創造的・論理的思考の側面 ・感性・情緒の側面 ・他者とのコミュニケーションの側面 ○言葉を通じて、社会や文化を創造しようとする態度、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度、集団としての考えを発展・深化させようとする態度、心を豊かにしようとする態度等
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動において必要に応じて情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりすることができる力 ○情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等
問題発見・解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等における問題の発見・解決に必要な力、各教科等で身に付けた力を統合的に活用する力等

4 非認知能力（社会情動的スキル）の育成

認知能力（点数化することができる力）の土台となる「非認知能力」（点数化が難しい力）について、すべての教育活動を通じて涵養を図る。

子ども一人一人にキャリア教育とも関連させて、自分が意識して伸ばす能力を見つめさせ、意図的・計画的・系統的に育成していく。



《主として教育委員会において》

1 情報発信の充実

- 本市調査結果の分析をホームページで公表する。
- 学校に合わせた具体的な改善方法や今日的教育課題等について、研修会や学校訪問等で指導する。
- 「四日市モデル」（問題解決能力を育む5つのプロセス）等に基づく主体的・対話的な授業づくりを推進する。

2 学力向上にかかわる教育施策の整備

- 学校と連携した学力向上につながる教育施策の整備・改善・展開に努める。
 - ・新教育プログラムの推進
 - ・少人数指導の充実
 - ・ICTの効果的な活用
 - ・読書活動の推進
 - ・幼・こ・保・小・中が連携した学びの一体化事業の推進
 - ・四日市版コミュニティースクールの推進
 - 等
- 学校への要請訪問において、学校の課題に応じた具体的な指導・助言を行う。

3 三重県教育委員会との連携

- 三重県教育委員会HP（授業サイクル支援ネット）のワークシートの活用を促進する。
- みえスタディ・チェックの結果分析等を授業改善に生かすよう働きかける。

8 参考資料

- 国立教育政策研究所
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査 解説資料 令和3年5月
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査 報告書 令和3年8月
 - ・授業アイデア例 令和3年9月
- 文部科学省
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
 - ・小中学校学習指導要領、解説
 - ・小中学校学習指導要領等の改訂のポイント
 - ・社会に開かれた教育課程
 - ・育成すべき資質・能力の三つの柱 など
- 内閣府等
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
 - ・Society 5.0
- 外務省等
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>
 - ・SDGs 関係資料
- 三重県教育ビジョン
- 小・中学校教育指導方針～生きる力 共に生きる力をはぐくむ教育～（四日市市教育委員会）
- 問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック2（四日市市教育委員会）
- 家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成
国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆
(池迫弘子 宮本晃司 ベネッセ教育総合研究所(訳))
<http://www.oecd.org/education/cei/FosteringSocialAndEmotionalSkillsJAPANESE.pdf>

など